

定量的なSGU指標における 10年間のデータ分析等 （取組結果）

目次

1. 分析方法等	2
2. 分析結果(まとめ)	6
3. SGU採択大学の指標グラフ	
▪3-1 必須指標	9
▪3-2 任意指標	27

1. 分析方法等

1. 分析方法等

(1) SGU採択大学 必須指標(※下段参照)により、①全体推移、②タイプ別(タイプA、タイプB)推移に分けて分析

〈国際化関連指標〉

(1) 多様性

- ① 教員に占める外国人及び外国の大学で学位を取得した専任教員等の割合 : 5/1時点
- ② 職員に占める外国人及び外国の大学で学位を取得した専任職員等の割合 : 5/1時点
- ④ 全学生に占める外国人留学生の割合 : 5/1時点、通年

(2) 流動性

- ⑤ 日本人学生に占める留学経験者の割合 : 通年
- ⑥-1 大学間協定に基づく交流数(派遣日本人学生数の割合) : 通年
- ⑥-2 大学間協定に基づく交流数(受入外国人留学生数の割合) : 通年

(4) 語学力関係

- ⑦ 外国語による授業科目数・割合 : 通年
- ⑧-1 外国語のみで卒業できるコースの数等(コースの設置数割合) : 5/1時点
- ⑧-2 外国語のみで卒業できるコースの数等(コースの在籍者数割合) : 5/1時点
- ⑨ 学生の語学レベルの測定・把握、向上のための取組 : 大学が定める時点

(5) 教務システムの国際通用性

- ⑩ ナンバリング実施状況・割合 : 5/1時点
- ⑪ シラバスの英語化の状況・割合 : 5/1時点

〈ガバナンス関連指標〉

(1) 人事システム

- ⑭-1 年俸制導入(教員割合) : 5/1時点
- ⑭-2 年俸制導入(職員割合) : 5/1時点

(2) ガバナンス

- ⑯ 事務職員の高度化への取組 : 5/1時点

〈教育の改革的取組関連指標〉

(1) 教育の質的転換・主体的学習の確保

- ⑩ 【再掲】ナンバリング実施状況・割合 : 5/1時点
- ⑪ 【再掲】シラバスの英語化の状況・割合 : 5/1時点

(2) 入試改革

- ⑰ TOEFL等外部試験の学部入試への活用 : 通年

〈左記の指標の算定方法〉

※SGU指標の算定に用いるデータについて、対象範囲等の詳細を「3.SGU採択大学の指標グラフ」関連ページに赤字で補足する。

- ① 外国人教員等／全専任教員数
- ② 外国人職員等／全専任職員数
- ④ 外国人留学生数／全学生数
- ⑤ 単位取得を伴う海外留学経験者数／全学生数
- ⑥-1 大学間協定に基づく派遣日本人学生数／全学生数
- ⑥-2 大学間協定に基づく受入外国人留学生数／全学生数
- ⑦ 外国語による授業科目数／全授業科目数
- ⑧-1 外国語のみで卒業できるコースの設置数／全学位コースの設置数
- ⑧-2 外国語のみで卒業できるコースの在籍者数／全学生数
- ⑨ 外国語力基準を満たす学生数／全学生数
- ⑩ ナンバリングを行っている授業科目数／全授業科目数
- ⑪ シラバスを英語化している授業科目数／全授業科目数
- ⑭-1 年俸制適用者(教員)数／全専任教員数
- ⑭-2 年俸制適用者(職員)数／全専任職員数
- ⑯ 外国語力基準を満たす専任職員数／全専任職員数
- ⑰ 上記同様
- ⑱ 上記同様
- ⑲ 対象学部入学定員数／全入学定員数

1. 分析方法等

(2) (1)と同様に、SGU採択大学 選択指標(※下段参照)により、①全体推移、②タイプ別(タイプA、タイプB)推移に分けて分析

※SGU指標の算定に用いるデータについて、対象範囲等の詳細を「3.SGU採択大学の指標グラフ」関連ページに赤字で補足する。

〈国際化関連指標〉

(1) 多様性

③-1 教職員に占める女性の比率(教員割合) : 5/1時点

③-2 教職員に占める女性の比率(職員割合) : 5/1時点

(6) 大学の国際開放度

⑫ 奨学金支給の入学許可時の伝達 : 通年

⑬-1 混住型学生宿舎の有無(外国人留学生割合) : 5/1時点

⑬-2 混住型学生宿舎の有無(日本人学生割合) : 5/1時点

〈左記の指標の算定方法〉

③-1 女性教員／全専任教員数

③-2 女性職員／全専任職員数

⑫ 外国人留学生への奨学金支給の入学許可時の伝達数／奨学金を取得した外国人留学生数

⑬-1 混住型学生宿舎に入居している外国人留学生数／留学生宿舎に入居している外国人留学生数

⑬-2 混住型宿舎に入居している日本人学生数／全日本人学生数

〈ガバナンス関連指標〉

(1) 人事システム

⑮ テニユアトラック制の導入 : 通年

⑮ テニユアトラック対象者数／年間専任教員採用者数

〈教育の改革的取組関連指標〉

(1) 教育の質的転換・主体的学習の確保

⑰ 学生の主体的参加と大学運営への反映の促進 : 通年

⑰ 学生による授業評価実施授業科目数／全授業科目数

1. 分析方法等

分析方法② タイプ別(タイプA、タイプB)詳細

<採択校>

タイプA:トップ型 (13大学)	
A01_北海道大学(国)	A08_京都大学(国)
A02_東北大学(国)	A09_大阪大学(国)
A03_筑波大学(国)	A10_広島大学(国)
A04_東京大学(国)	A11_九州大学(国)
A05_東京科学大学(国) (旧東京医科歯科大学)	A12_慶應義塾大学(私)
A06_東京科学大学(国) (旧東京工業大学)	A13_早稲田大学(私)
A07_名古屋大学(国)	

タイプB:グローバル化牽引型 (24大学)	
B01_千葉大学(国)	B13_国際基督教大学(私)
B02_東京外国語大学(国)	B14_芝浦工業大学(私)
B03_東京藝術大学(国)	B15_上智大学(私)
B04_長岡技術科学大学(国)	B16_東洋大学(私)
B05_金沢大学(国)	B17_法政大学(私)
B06_豊橋技術科学大学(国)	B18_明治大学(私)
B07_京都工芸繊維大学(国)	B19_立教大学(私)
B08_奈良先端科学技術大学院大学(国)	B20_創価大学(私)
B09_岡山大学(国)	B21_国際大学(私)
B10_熊本大学(国)	B22_立命館大学(私)
B11_国際教養大学(公)	B23_関西学院大学(私)
B12_会津大学(公)	B24_立命館アジア太平洋大学(私)

(採択校分類)

タイプ別	Aタイプ : 13校	Bタイプ : 24校	
国公私 大学別	国立大学 : 21校	公立大学 : 2校	私立大学 : 14校

<以下、SGU事業情報>

(支援状況結果)

事業期間 : 2014年度～2023年度 (10年間)

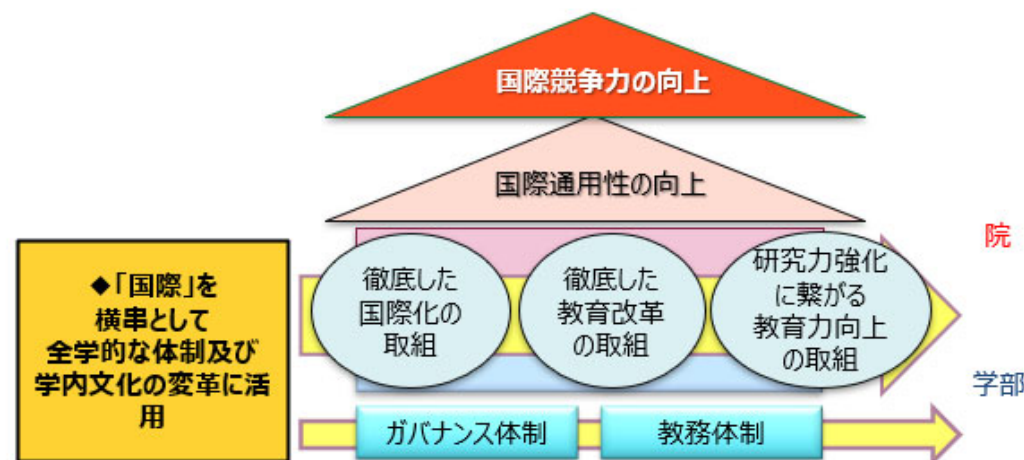
支援規模 : 10年間の合計で約483億円を支援

○トップ型 13件

世界ランキングトップ100を目指す力のある大学を支援

○グローバル化牽引型 24件

これまでの実績を基に更に先導的試行に挑戦し、我が国社会のグローバル化を牽引する大学を支援



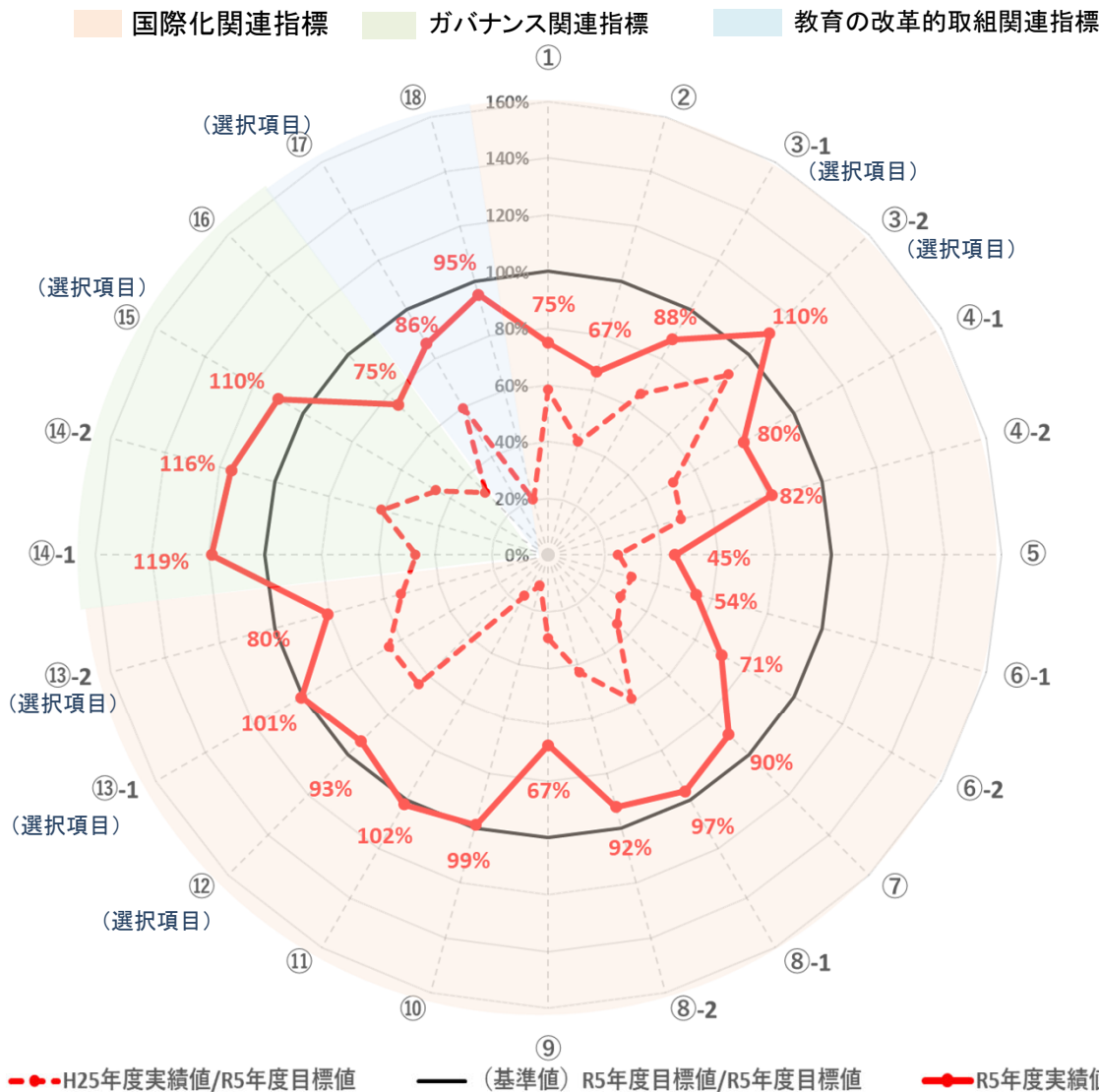
2. 分析結果(まとめ)

2. 分析結果(まとめ)

(1) SGU 全定量的指標(必須指標、選択指標)

～SGU採択校全体版～

R5年度SGU採択校全体目標値を基準値(100%)とした際のSGU採択校全体実績値の比較(H25年度、R5年度)



—	項 目	—	項 目
①	教員に占める外国人及び外国の大学で学位を取得した専任教員等の割合	⑨	学生の語学レベルの測定・把握、向上のための取組
②	職員に占める外国人及び外国の大学で学位を取得した専任職員等の割合	⑩	ナンバリング実施状況・割合※
③	教職員に占める女性の比率(教員割合)	⑪	シラバスの英語化の状況・割合※
③-1	教職員に占める女性の比率(職員割合)	⑫	奨学金支給の入学許可時の伝達
④	全学生に占める外国人留学生割合(5.1時点)	⑬	混住型学生宿舍の有無(外国人留学生割合)
④-1	全学生に占める外国人留学生割合(通年)	⑬-1	混住型学生宿舍の有無(日本人学生割合)
⑤	日本人学生に占める留学経験者の割合	⑭	年俸制の導入(教員割合)
⑥	大学間協定に基づく交流数(派遣日本人学生の割合)	⑭-1	年俸制の導入(職員割合)
⑥-1	大学間協定に基づく交流数(受入外国人留学生の割合)	⑮	テニユアトラック制の導入
⑦	外国語による授業科目数・割合	⑯	事務職員の高度化への取組
⑧	外国語のみで卒業できるコースの数等(コースの設置数割合)	⑰	学生の主体的参加と大学運営への反映の促進
⑧-1	外国語のみで卒業できるコースの数等(コースの在籍者割合)	⑱	TOEFL等外部試験の学部入試への活用

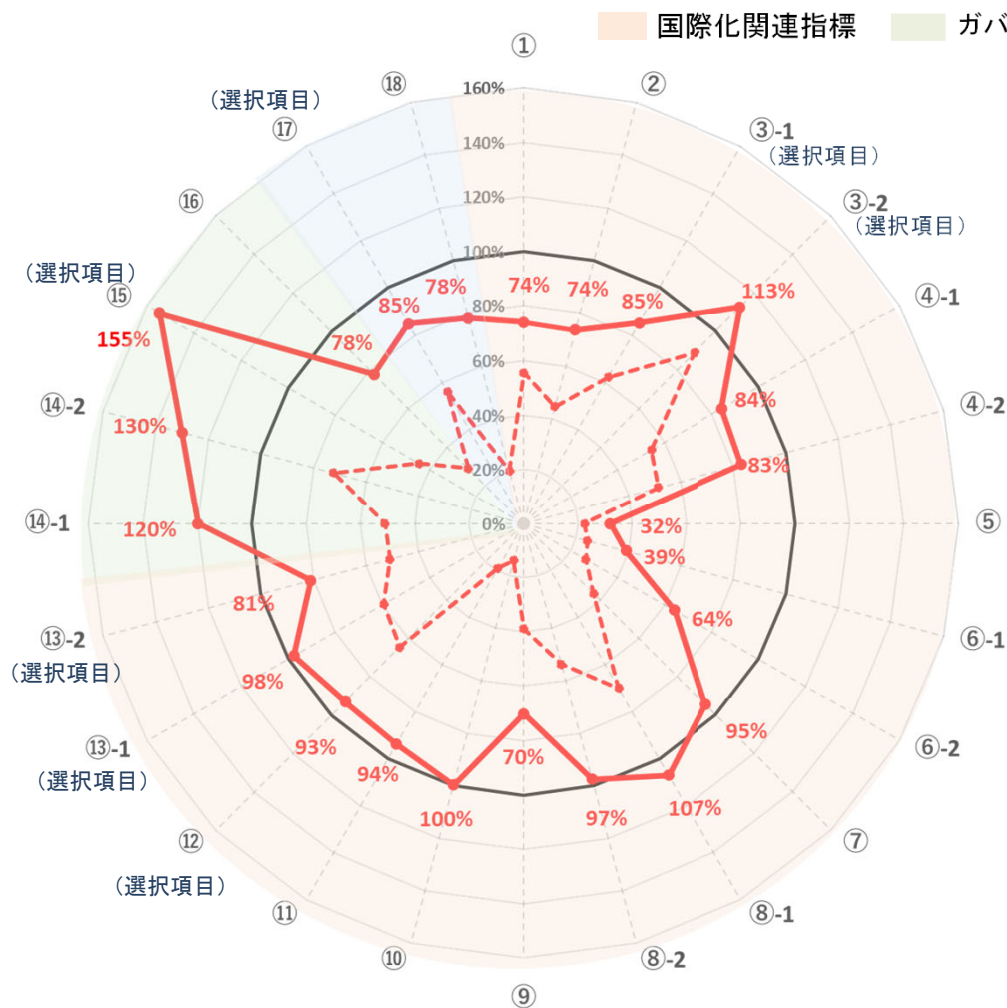
※「⑩ナンバリング実施状況・割合」及び「⑪シラバスの英語化の状況・割合」項目については、『教育の改革的取組関』の指標との重複項目となる。

2. 分析結果(まとめ)

(2) SGU採択校タイプ別 全定量的指標(必須指標、選択指標)

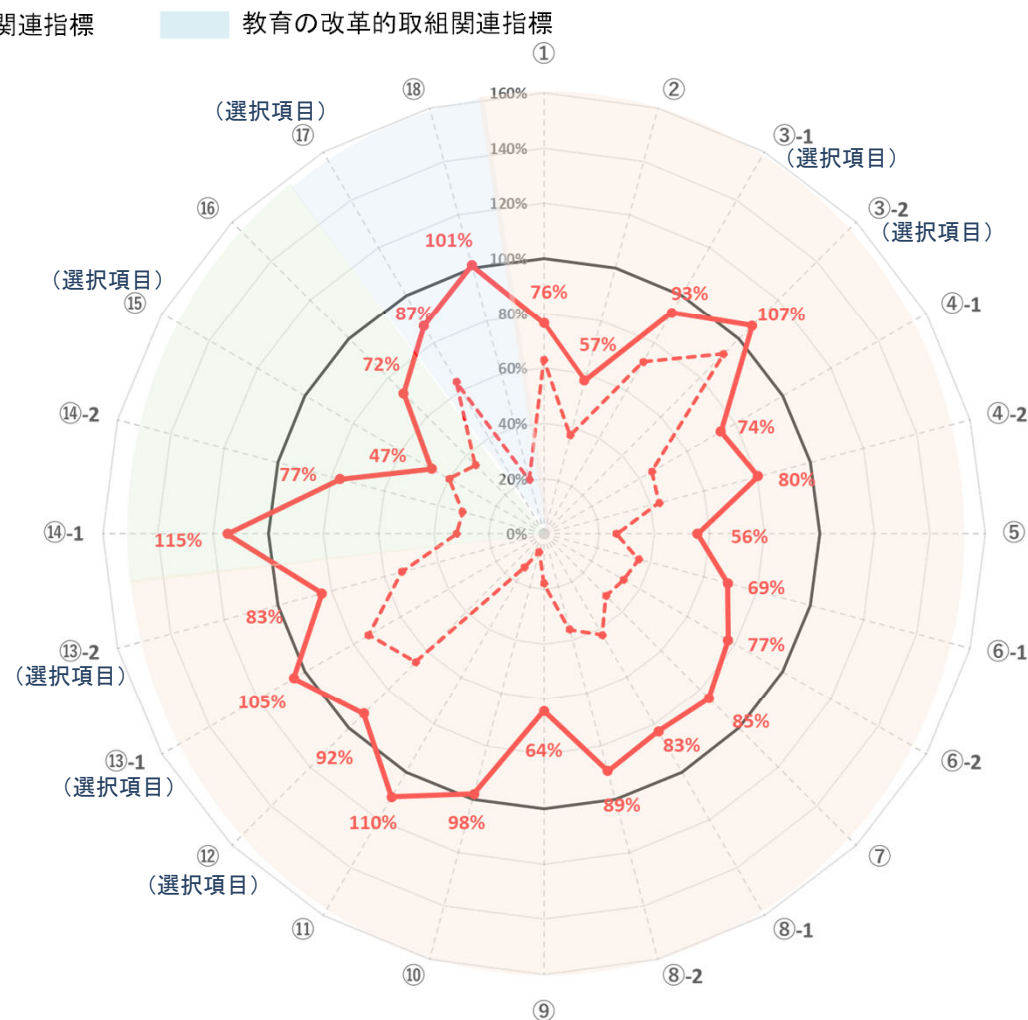
～ タイプA:トップ型 ～

R5年度タイプA全体目標値を基準値(100%)とした際の
タイプA全体実績値の比較(H25年度、R5年度)



～ タイプB:グローバル化牽引型 ～

R5年度タイプB全体目標値を基準値(100%)とした際の
タイプB全体実績値の比較(H25年度、R5年度)



--- H25年度実績値/R5年度目標値 — (基準値) R5年度目標値/R5年度目標値 — R5年度実績値/R5年度目標値

3. SGU採択大学の指標グラフ

・3－1 必須指標

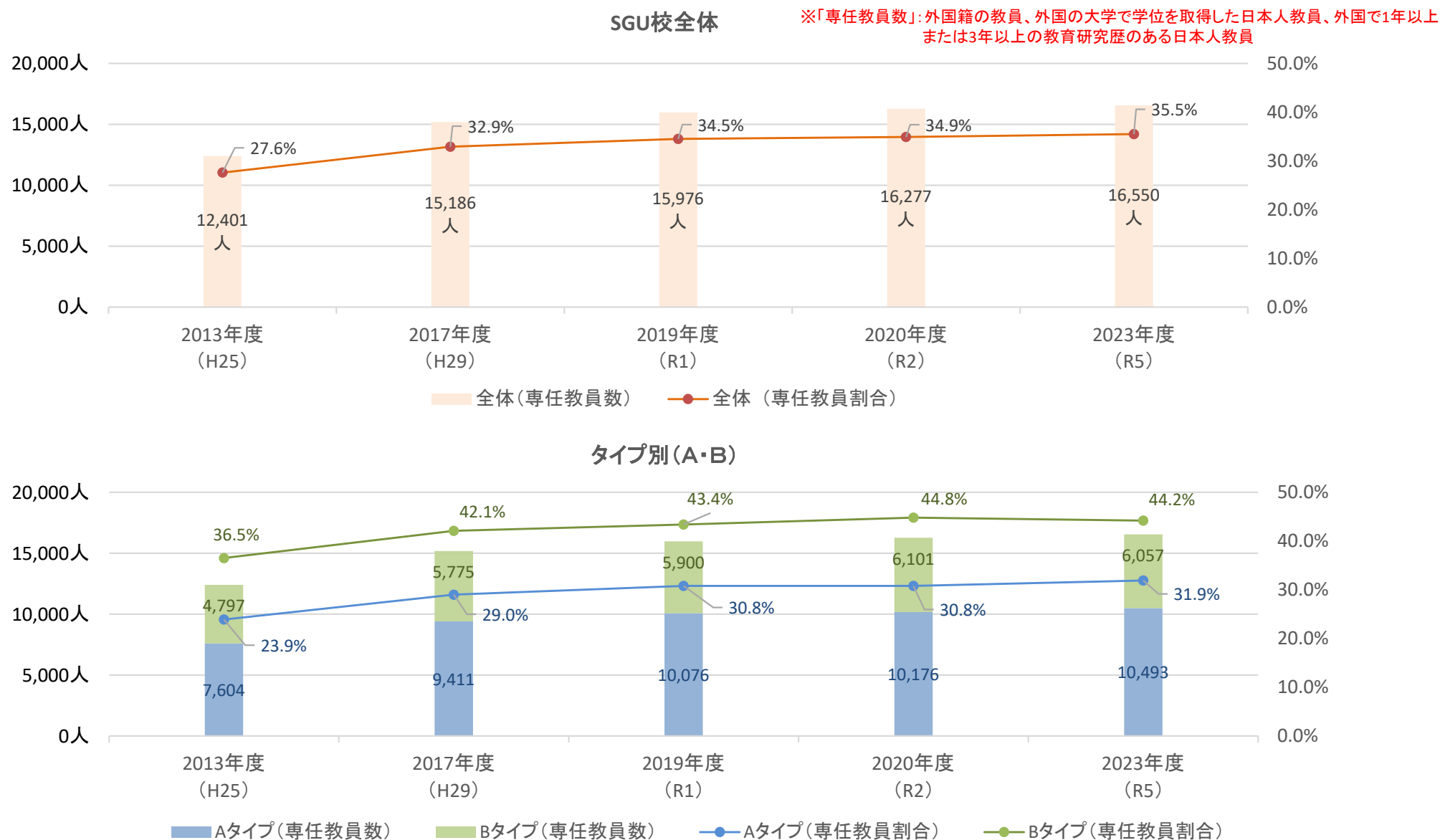
・3－2 選択指標

◆実績のピックアップ年度は、以下のとおり。

- ・2013年度(H25) : SGU事業開始前年度
- ・2017年度(H29) : 1回目中間評価年度(支援開始から4年目)
- ・2019年度(R1) : 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)流行ピークの前年度
- ・2020年度(R2) : 2回目中間評価年度(支援開始から7年目)
- ・2023年度(R5) : SGU事業最終年度

①教員に占める外国人及び外国の大学で学位を取得した専任教員等の割合
＜5/1時点＞

- 全体的に2013年度から2023年度まで外国人教員等人数および外国人教員等割合いずれも約1.3倍増加しており順調に推移。
- タイプ別でみると、SGU実施前から2023年度までBタイプの方がAタイプよりも外国人教員等割合が大きい。タイプ毎で推移に大きな相違もなく、いずれのタイプも順調に増加。

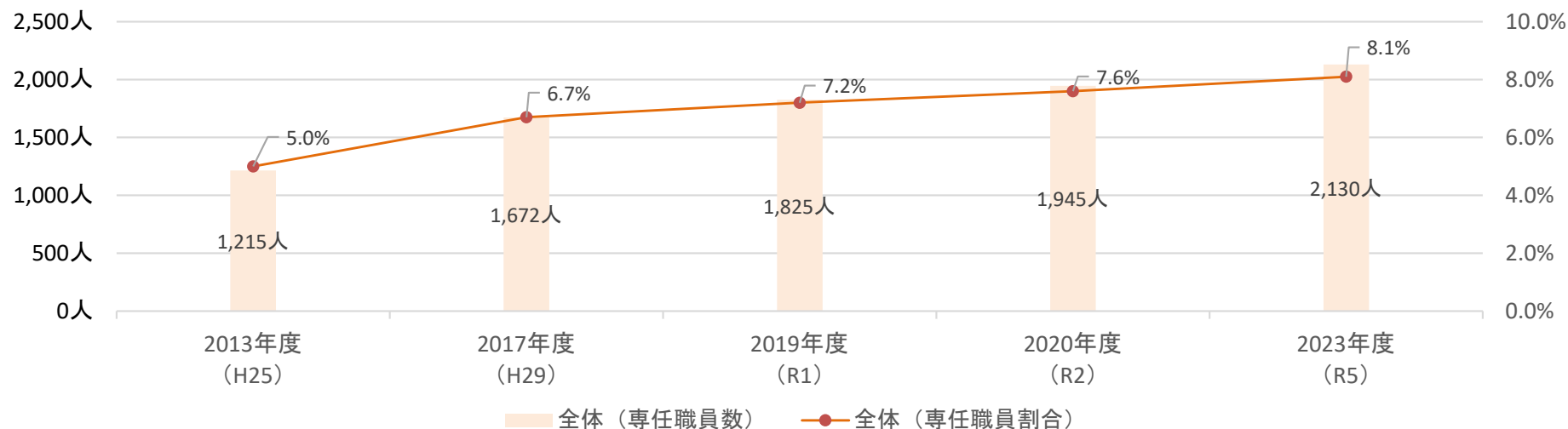


②職員に占める外国人及び外国の大学で学位を取得した専任職員等の割合
＜5/1時点＞

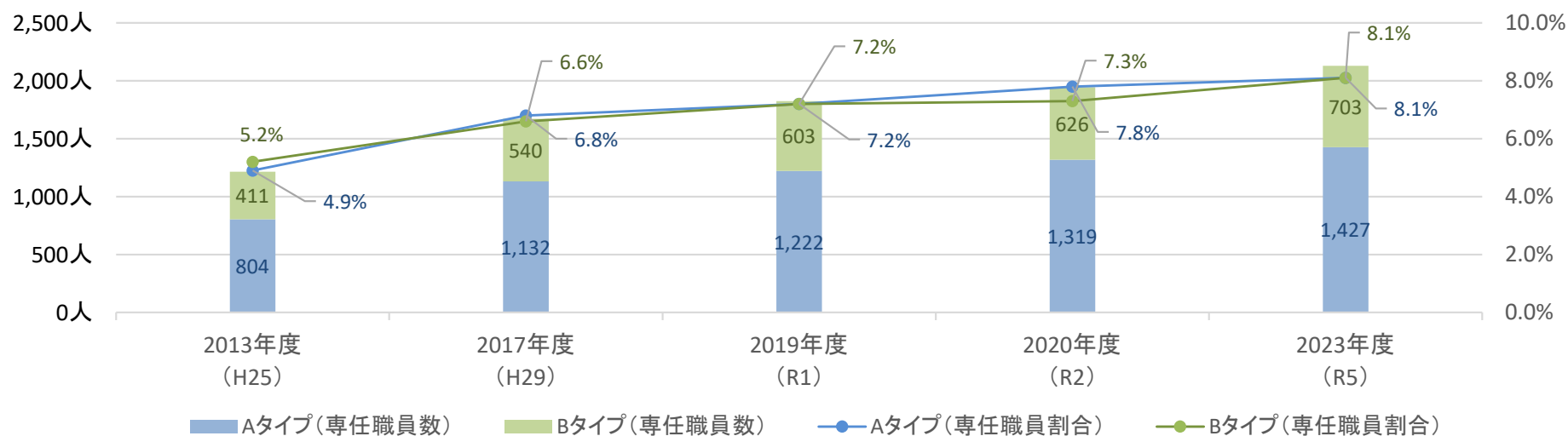
- 全体的に2013年度から2023年度まで外国人職員等人数は約1.8倍にまで増加、また、外国人職員等割合も1.6倍ほど増加している。
- タイプ別でみると、SGU実施前はBタイプの方がAタイプよりもわずかに外国人職員等割合が大きかったが、2023年では同等の割合となっている。

SGU校全体

※「専任職員数」：外国籍の職員、外国の大学で学位を取得した日本人職員、外国で1年以上の職務・研修経験のある日本人職員

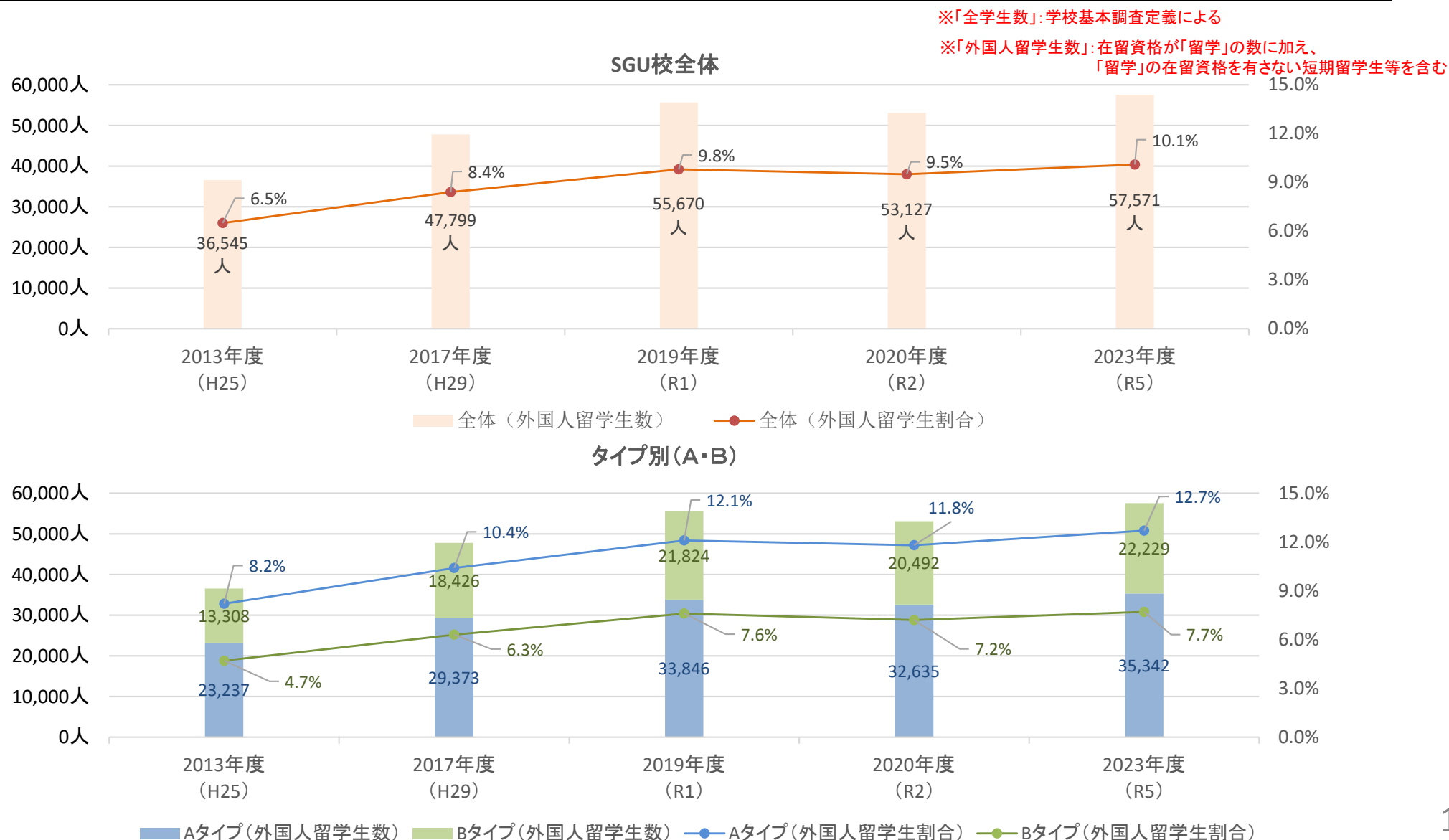


タイプ別(A・B)



④ - 1 全学生に占める外国人留学生の割合 <5/1時点>

- 全体的に2013年度からコロナ影響前の2019年度まで外国人留学生数とその割合は順調に増加している。
- タイプ別でみると、SGU前からAタイプの方がBタイプよりも外国人留学生割合が大きく、両タイプとも2019年度まで順調に増加。
- コロナ影響前のピーク(2019年度)を境に、一時停滞が見られたが、2023年度にはコロナ禍前のピーク時年度より数・割合ともにやや伸びが見られ、回復されている。

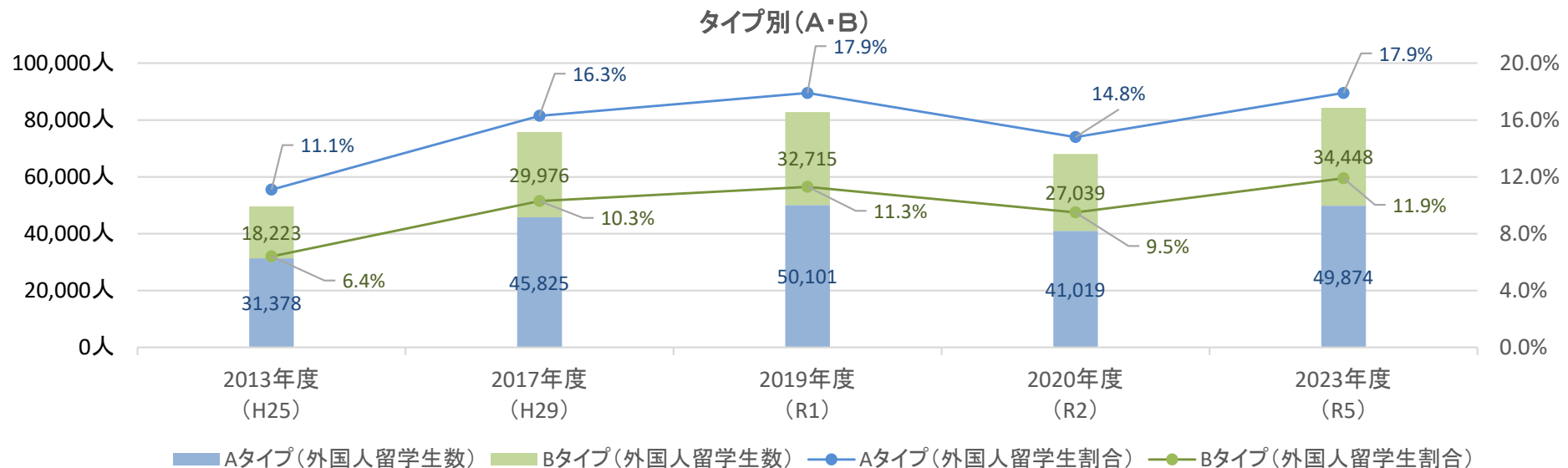
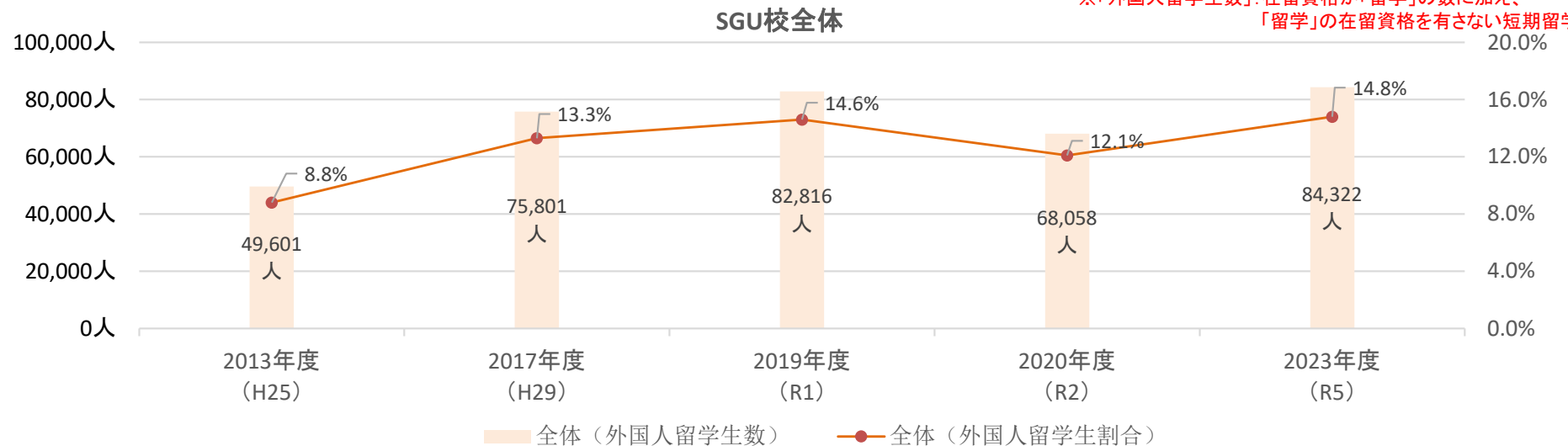


④ - 2 全学生に占める外国人留学生の割合 <通年>

- 全体的に2013年度からコロナ影響前の2019年度まで外国人留学生数とその割合は順調に増加しており、留学生数とその割合のいずれも約1.7倍程度の増加率となっている。
- タイプ別でみると、SGU実施前からAタイプの方がBタイプよりも割合が大きく、両タイプとも2019年度までは順調に増加。
- 2020年度はコロナの影響により一旦減少に転じるも、2023年度には数・割合ともに同等程度となっており回復されている。

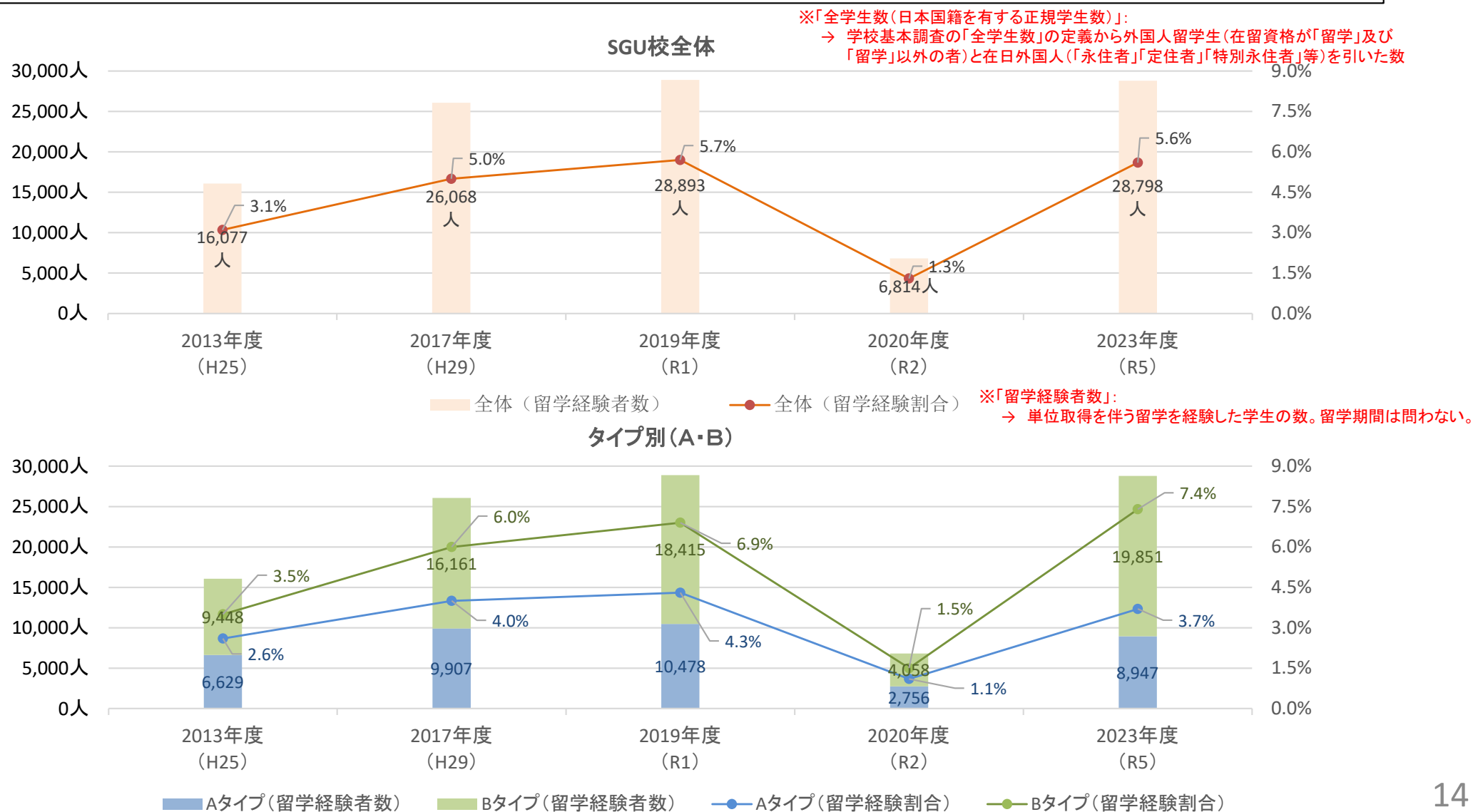
※「全学生数」: 学校基本調査定義による

※「外国人留学生数」: 在留資格が「留学」の数に加え、「留学」の在留資格を有さない短期留学生等を含む



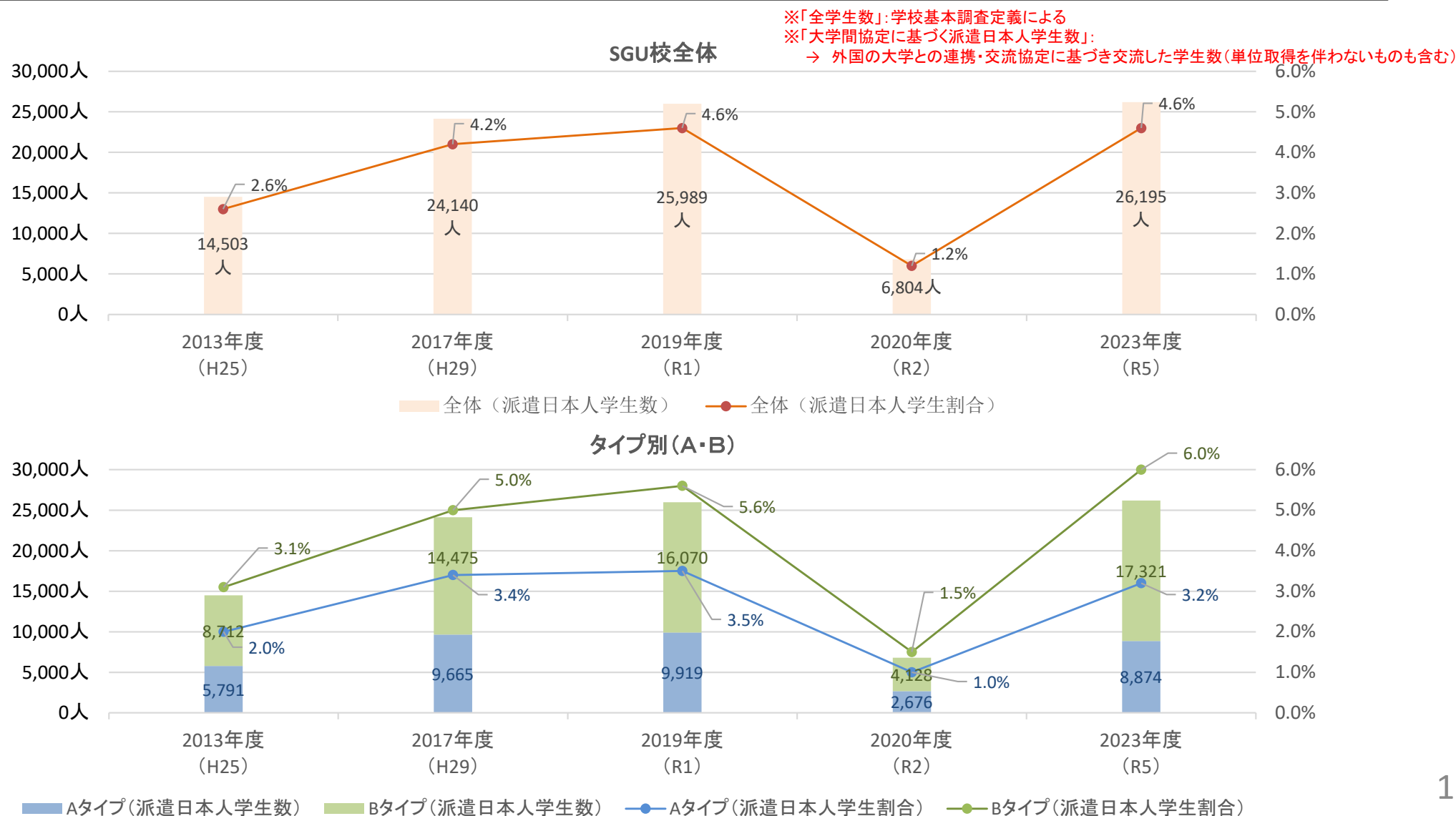
⑤ 日本人学生に占める留学経験者の割合 <通年>

- 全体的に2013年度からコロナ影響前の2019年度まで留学経験者とその割合は約1.8倍まで増加しており、順調に推移。
- タイプ別でみると、SGU実施前からBタイプの方がAタイプよりも留学経験者割合が大きく、2013年度から2023年度の伸びについてもBタイプの方が大きな上昇となった。
- 一時コロナの影響による大幅な落ち込みが見られたが、2023年度においてはコロナ影響前の年度と同等の数値まで回復されている。



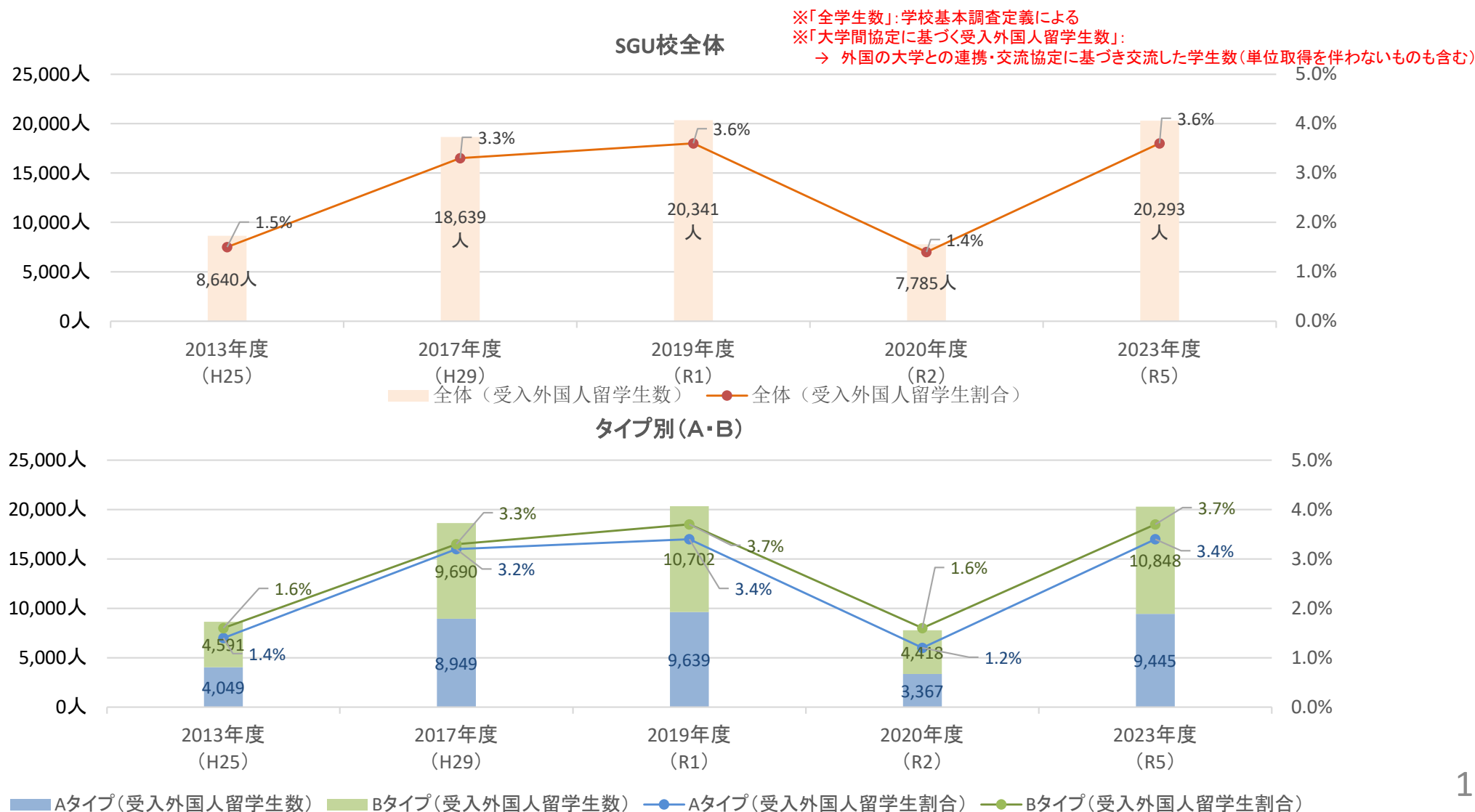
⑥-1 大学間協定に基づく交流数
(派遣日本人学生の割合) <通年>

- 全体的に2013年度からコロナ影響前の2019年度まで派遣日本人学生数とその割合は増加。
- タイプ別でみると、SGU実施前からBタイプの方がAタイプよりも派遣学生数およびその割合が大きく、両タイプとも2019年度まで派遣学生数と割合は順調に増加している。
- 一時コロナの影響による大幅な落ち込みが見られたが、2023年度においてはコロナ影響前の年度と同等の数値まで回復されている。



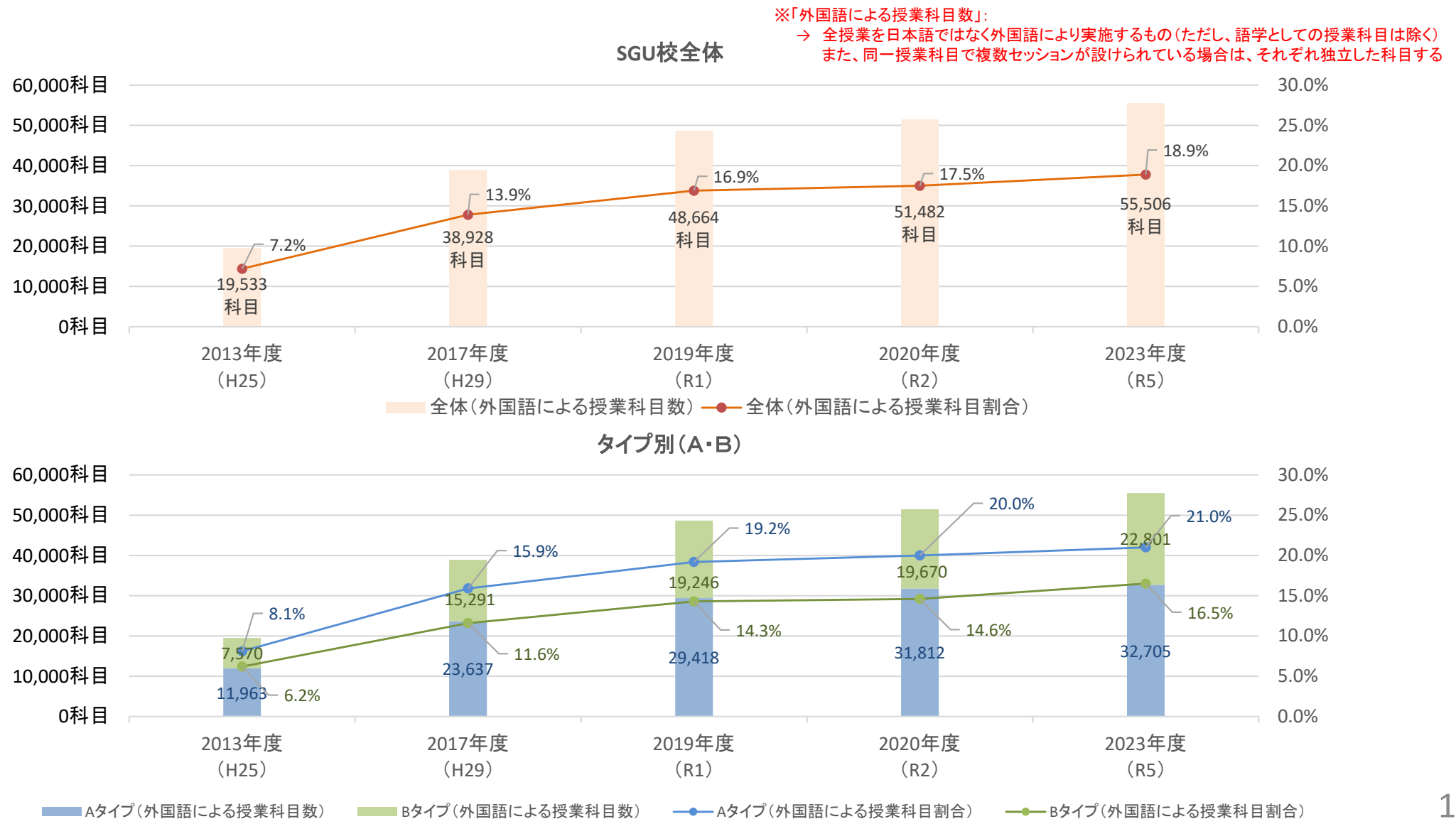
⑥-2 大学間協定に基づく交流数
(受入外国人留学生の割合) <通年>

- 全体的に2013年度からコロナ影響前の2019年度まで受入外国人留学生数とその割合は2倍以上も増加。
- タイプ別でみると、SGU実施前からBタイプの方がAタイプよりも受入外国人留学生数および受入外国人留学生比率が高く、2019年度までは両タイプとも受入留学生数とその割合は順調に増加している。
- 一時コロナの影響による大幅な落ち込みが見られたが、2023年度においてはコロナ影響前の年度と同等の数値まで回復されている。



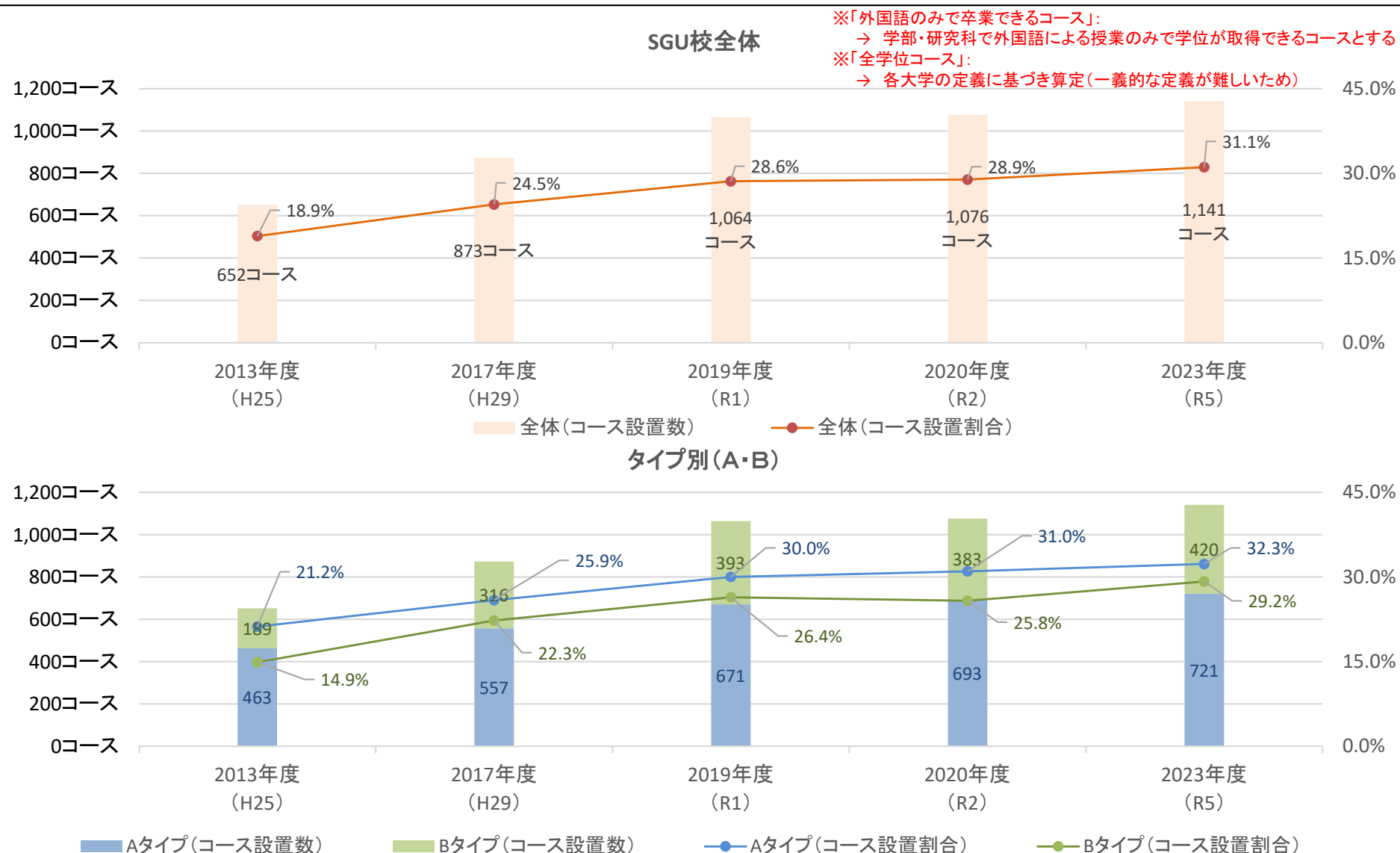
⑦ 外国語による授業科目数・割合 <通年>

- 全体的に2013年度から2023年度まで外国語による授業科目数とその割合は順調に増加しており、2.6倍以上の伸び率となっている。
- タイプ別でみると、SGU実施前からAタイプの方がBタイプよりも外国語による授業科目数およびその割合が大きい。また、両タイプとも2013年度から2023年度にかけて授業科目数と割合いずれも2倍以上増加している。



⑧-1 外国語のみで卒業できるコースの数等
(コースの設置数割合) <5/1時点>

- 全体的に2013年度から2022年度まで外国語のみで卒業できるコースの設置数とその割合は約1.7倍まで増加しており、順調に推移。
- タイプ別でみると、SGU実施前からAタイプの方がBタイプよりも外国語のみで卒業できるコース設置数およびその割合が大きい。一方で、2013年度から2023年度までの増加率の点からは、コース設置数およびその割合はBタイプの方が大きくなっており、約2倍程度増加している。

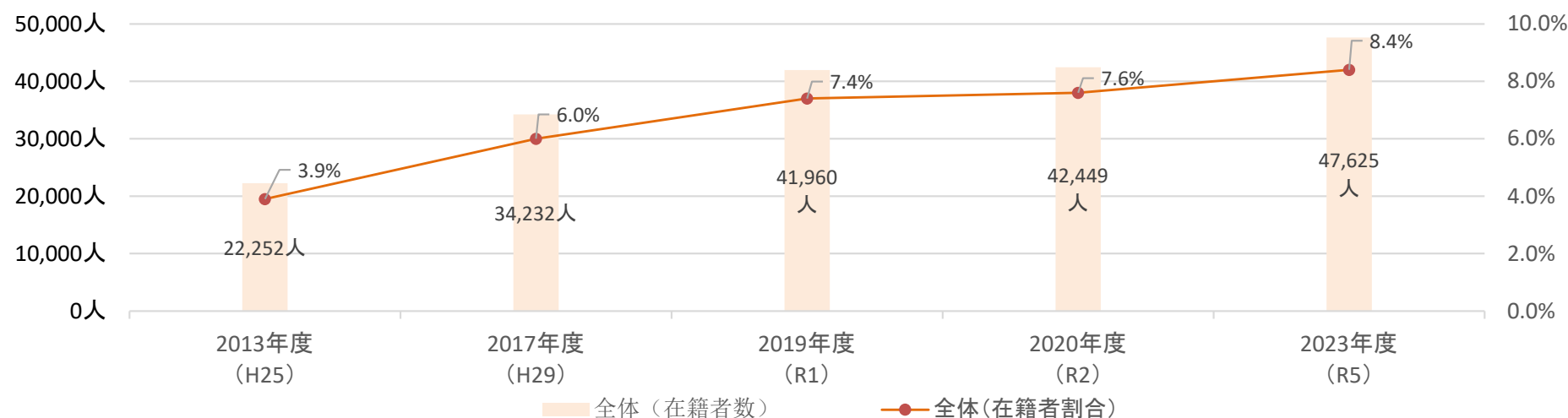


⑧-2 外国語のみで卒業できるコースの数等
(コースの在籍者数割合) <5/1時点>

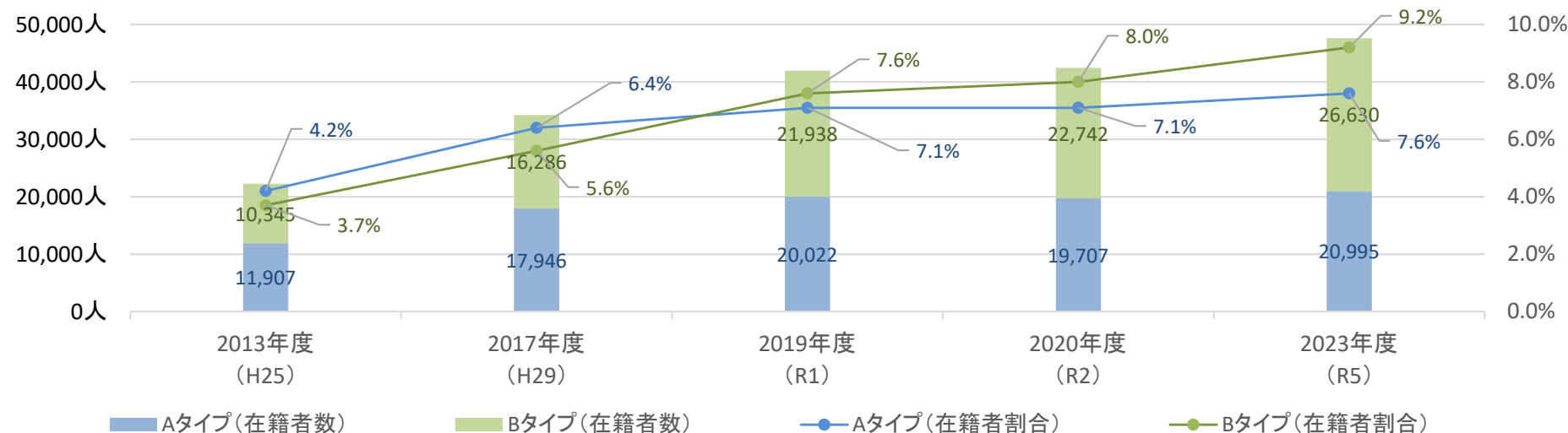
- 全体的に2013年度から2023年度まで外国語のみで卒業できるコースの在籍者数とその割合は2倍以上と順調に増加。
- タイプ別でみると、SGU実施前はAタイプの方がBタイプよりも外国語のみで卒業できるコースの在籍者数およびその割合が大きかったが、2013年度から2023年度にかけてBタイプは2.5倍程度増加した結果、事業期間の途中(2019)年度より逆転し、Bタイプの方が在籍者数とその割合が大きくなっている。

※「全学生数」:学校基本調査定義による

SGU校全体



タイプ別(A・B)

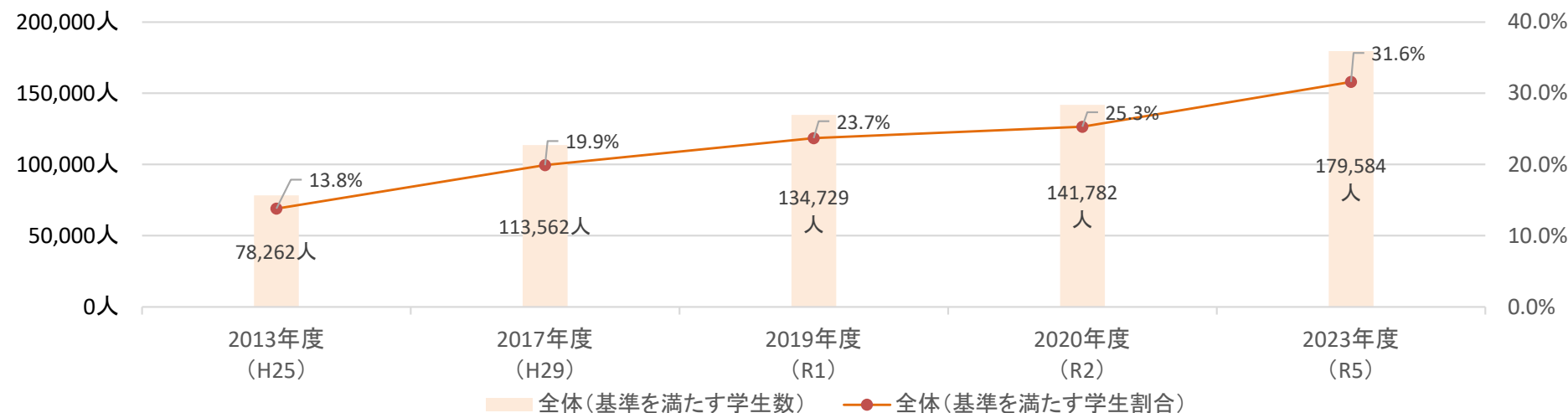


⑨ 学生の語学レベルの測定・把握、向上のための取組
(外国語力基準を満たす学生数・割合) <大学が定める時点>

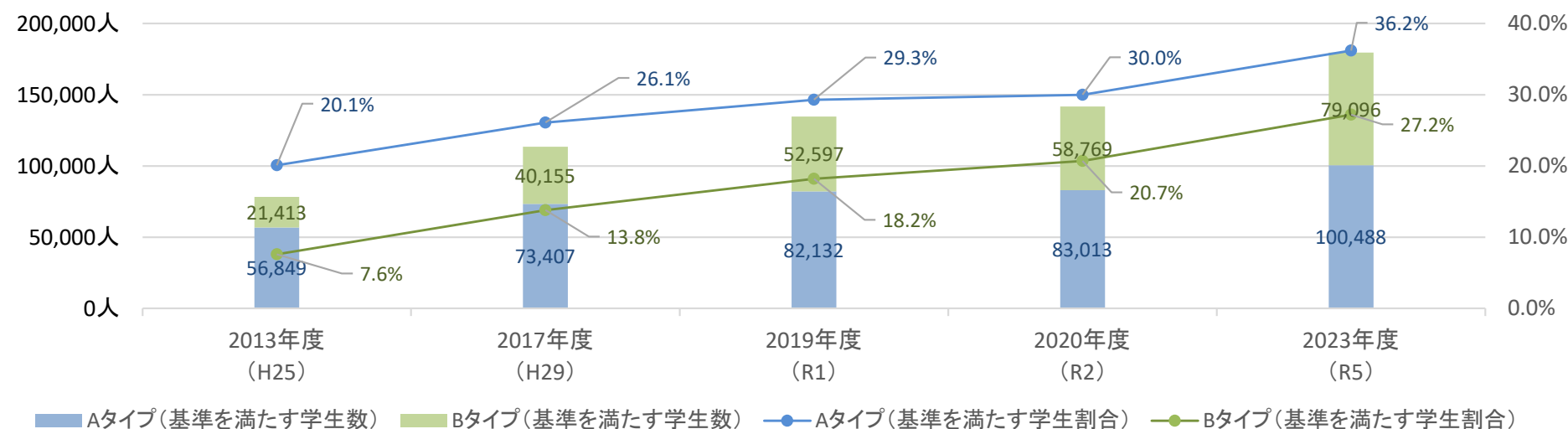
- 全体的に2013年度から2023年度まで外国語力基準を満たす学生数とその割合は2倍以上と順調に増加。
- タイプ別でみると、SGU実施前からAタイプの方がBタイプよりも外国語力基準を満たす学生数およびその割合が大きい。一方で、2013年度から2021年度までの外国語力基準を満たす学生数およびその割合の増加率の点からは、Bタイプの方が大きく、3.5倍以上増加している。

※「全学生数」:学校基本調査定義による
※「基準を満たす学生数」:
→ 大学において定めた外国語力基準と、大学が定める時点による

SGU校全体

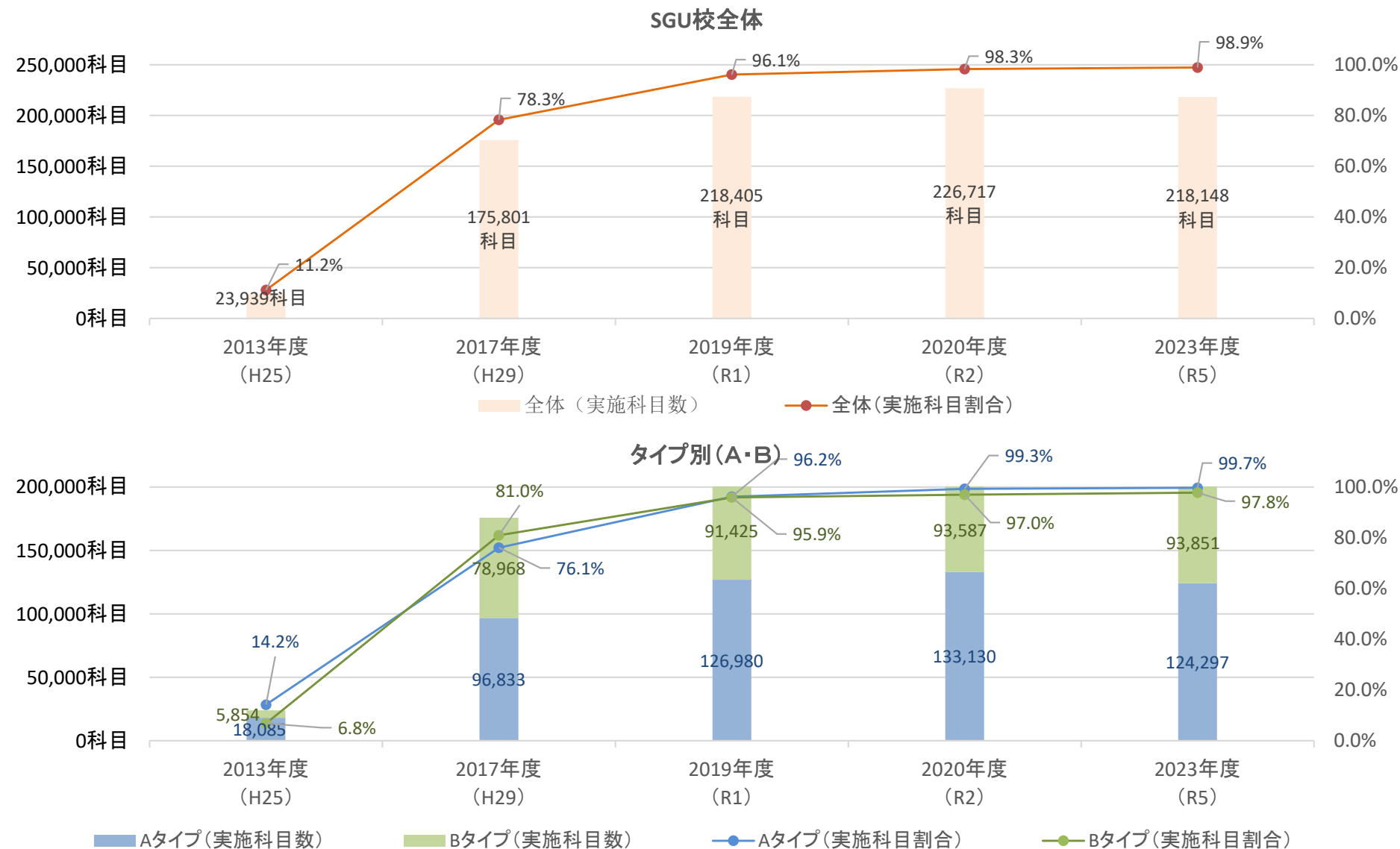


タイプ別(A・B)



⑩ ナンバリング実施状況・割合 <5/1時点>

- 全体的に2013年度から2023年度までナンバリング実施科目数とその割合は顕著に増加し、100%実施に近いものとなった。
- タイプ別でみると、SGU実施前からAタイプの方がBタイプよりもナンバリング実施科目数およびその割合が大きい。また、両タイプとも2017年度までで急増しその後は緩やかに増加、2023年度にはほぼ100%となっている。

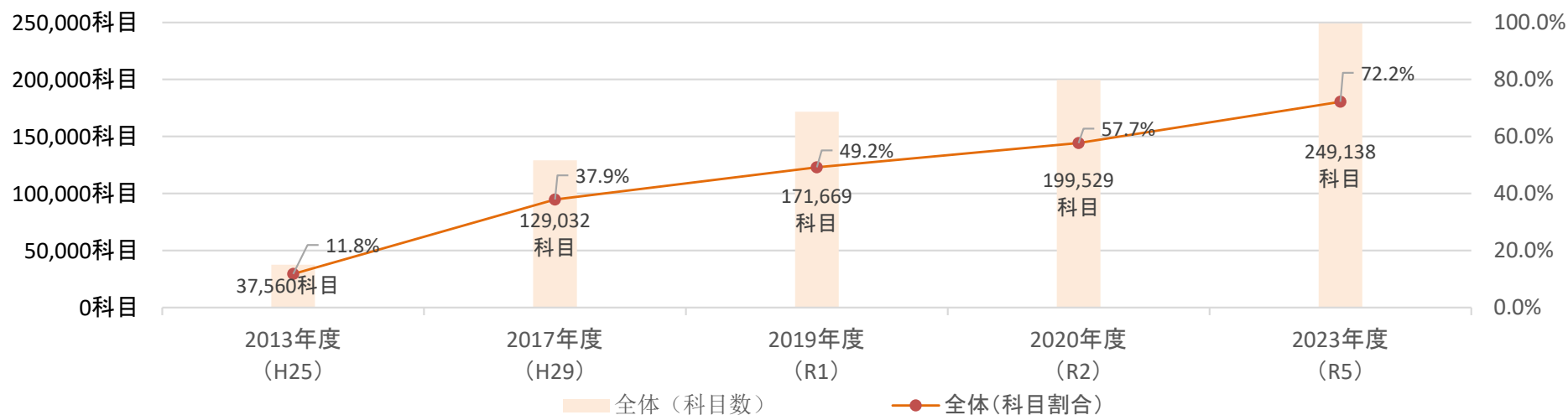


⑪ シラバスの英語化の状況・割合 <5/1時点>

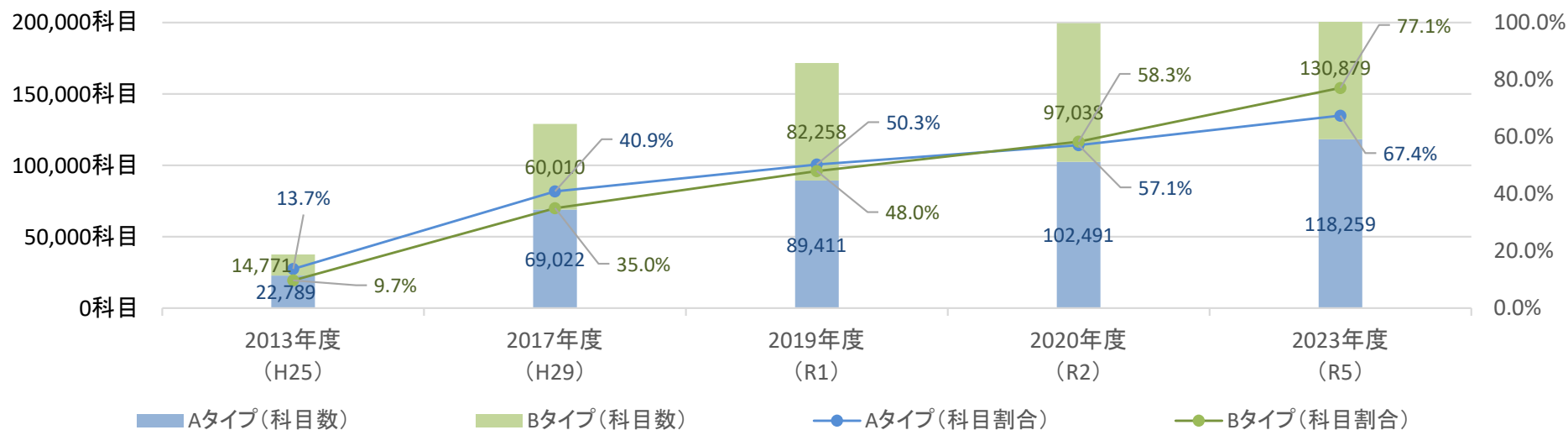
- 全体的に2013年度から2023年度までシラバスの英語化を実施している科目数とその割合は6倍以上増加しており、顕著に推移。
- タイプ別でみると、SGU実施前はAタイプの方がBタイプよりもシラバスの英語化を実施している科目数とその割合が高かったが、Bタイプは2013年度から2023年度までに8倍程度伸びたことで、2023年度はBタイプのほうがAタイプよりも大きくなっている。

※「科目数」:
→ シラバスを英語化している科目数
同一授業科目で複数セッションが設けられている場合は、それぞれ独立した科目とする

SGU校全体

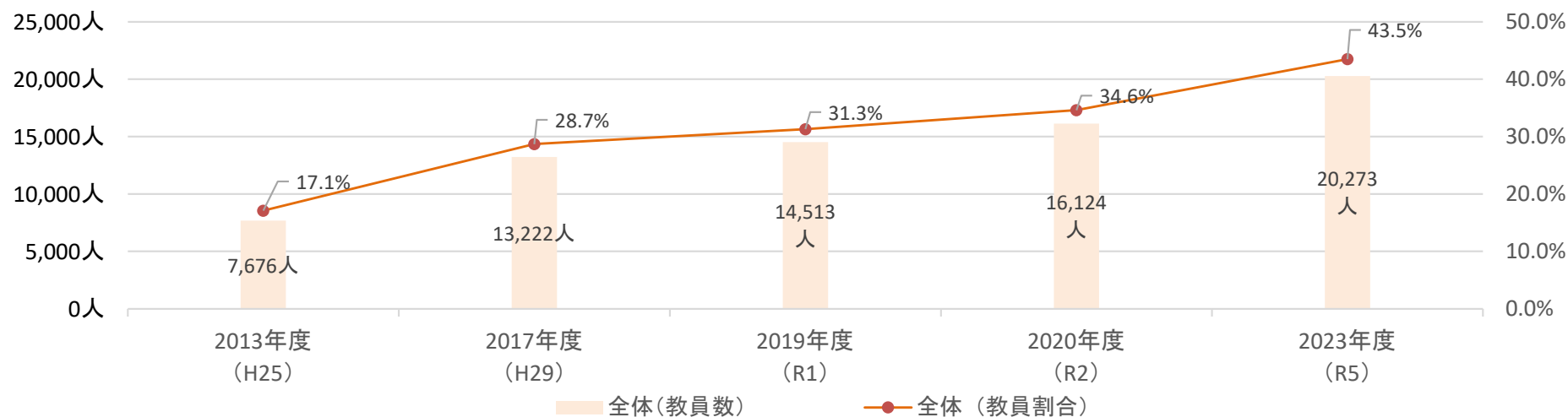


タイプ別(A・B)

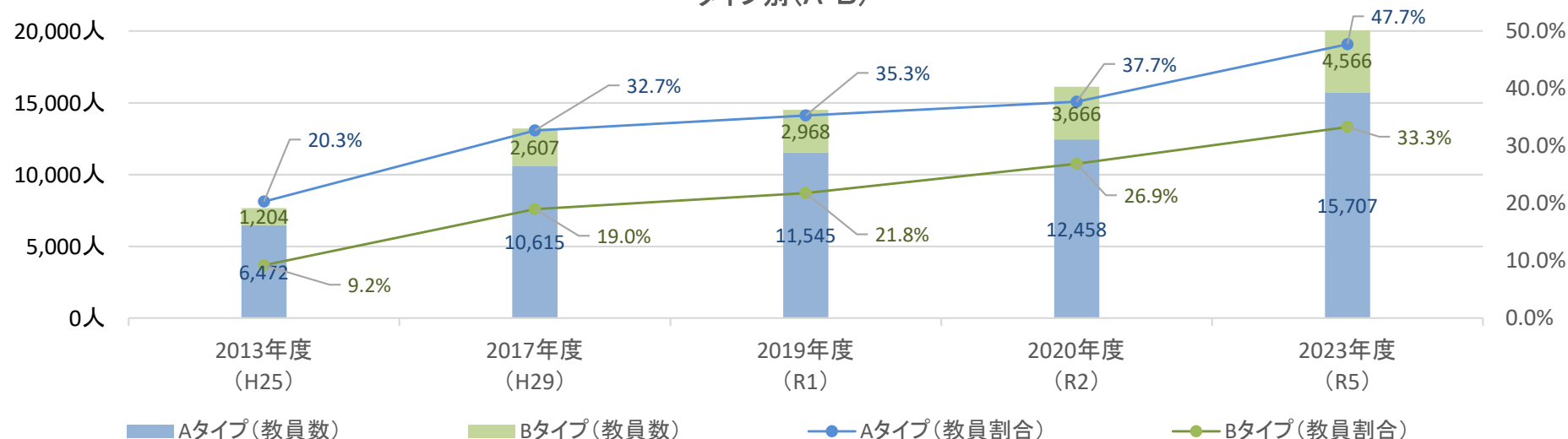


- 全体的に2013年度から2023年度まで年俸制適用教員数とその割合は約2.5倍と順調に増加。
- タイプ別でみると、SGU実施前からAタイプの方がBタイプよりも年俸制適用教員数およびその割合が大きい。また、2013年度から2023年度にかけて、年俸適用職員数およびその割合のいずれもBタイプのほうが増加率が大きく、3.6倍まで増加している。

SGU校全体

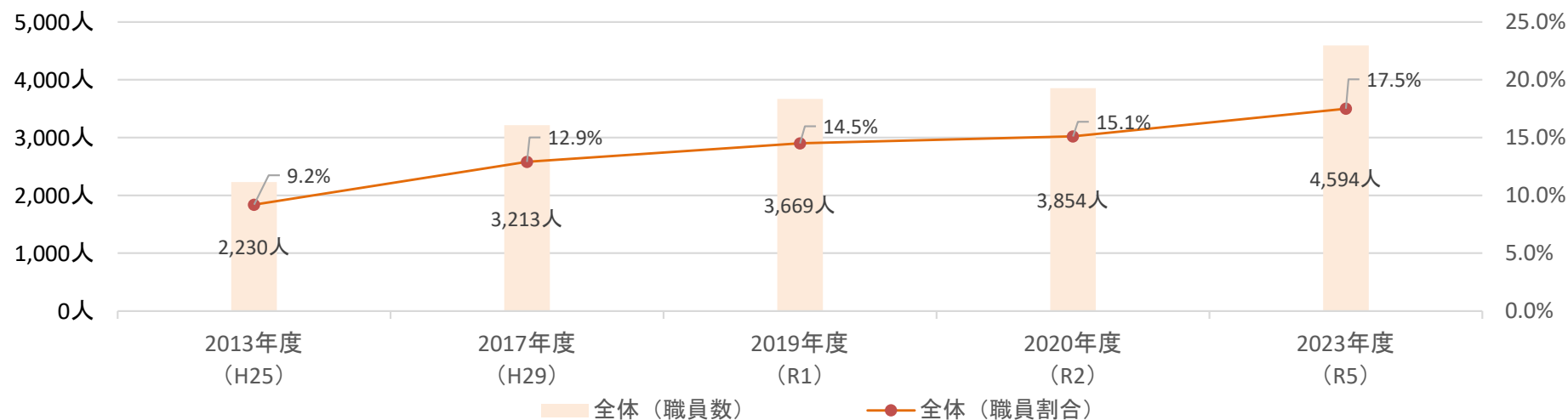


タイプ別(A・B)

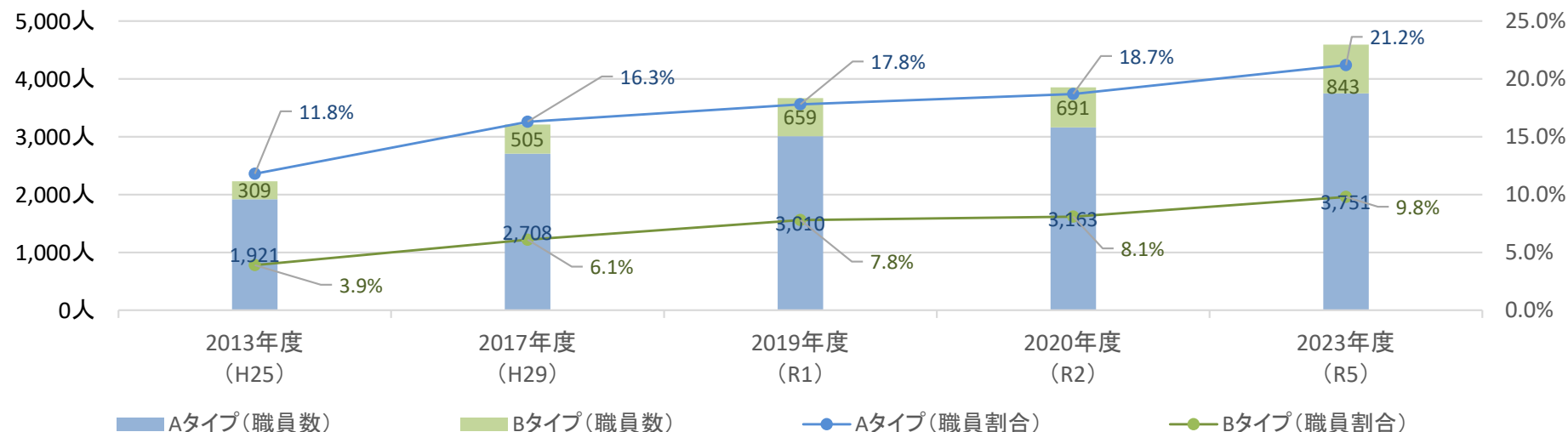


- 全体的に2013年度から2023年度にかけて、年俸制適用職員数とその割合は約2倍と順調に増加。
- タイプ別でみると、SGU実施前からAタイプの方がBタイプよりも年俸制適用職員数とその割合が大きい。また、2013年度から2022年度にかけての年俸制適用職員数とその割合の増加率については、Bタイプの方がAタイプよりも大きく増加しており、約2.5倍程度伸びている。

SGU校全体



タイプ別 (A・B)

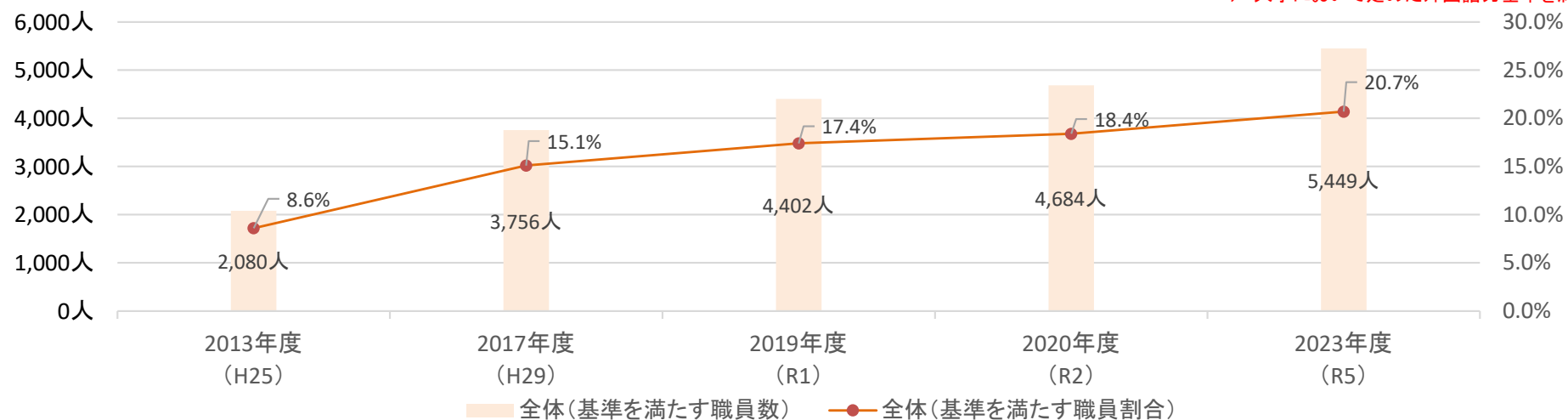


⑩ 事務職員の高度化への取組
(外国語力基準を満たす専任職員割合) <5/1時点>

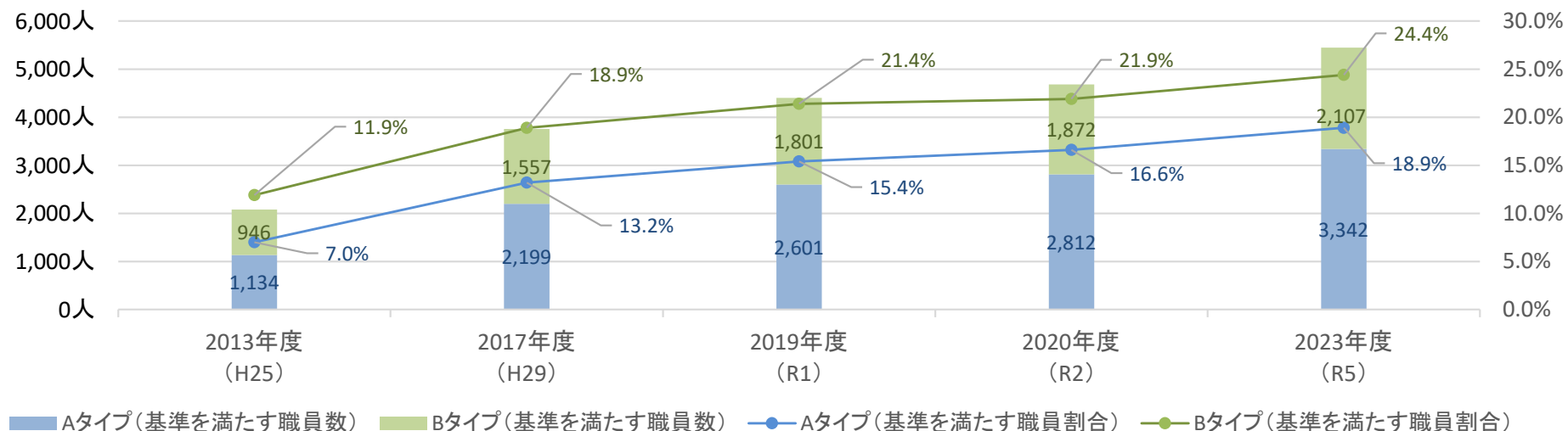
- 全体的に2013年度から2023年度まで外国語力基準を満たす専任職員数とその割合はおよそ2.5倍と順調に増加。
- タイプ別でみると、SGU実施前からBタイプの方がAタイプよりも外国語力基準を満たす専任職員割合が大きい。また、2013年度から2023年度にかけての外国語力基準を満たす専任職員数とその割合の増加率については、Aタイプの方がBタイプよりも大きく増加しており、2.7倍伸びている。

SGU校全体

※「基準を満たす職員数」:
→ 大学において定めた外国語力基準を満たす専任職員数

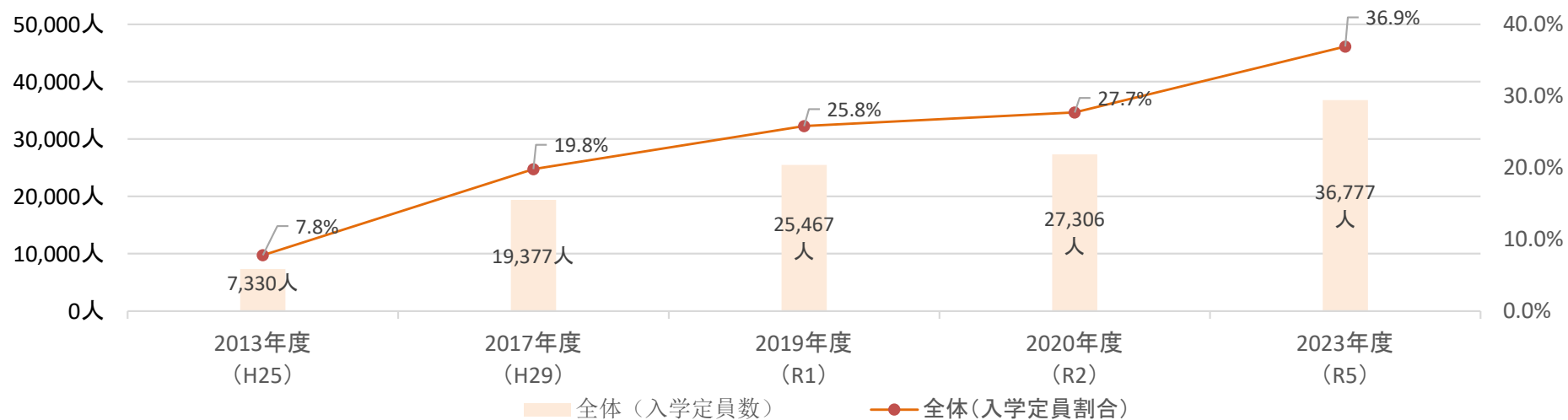


タイプ別(A・B)

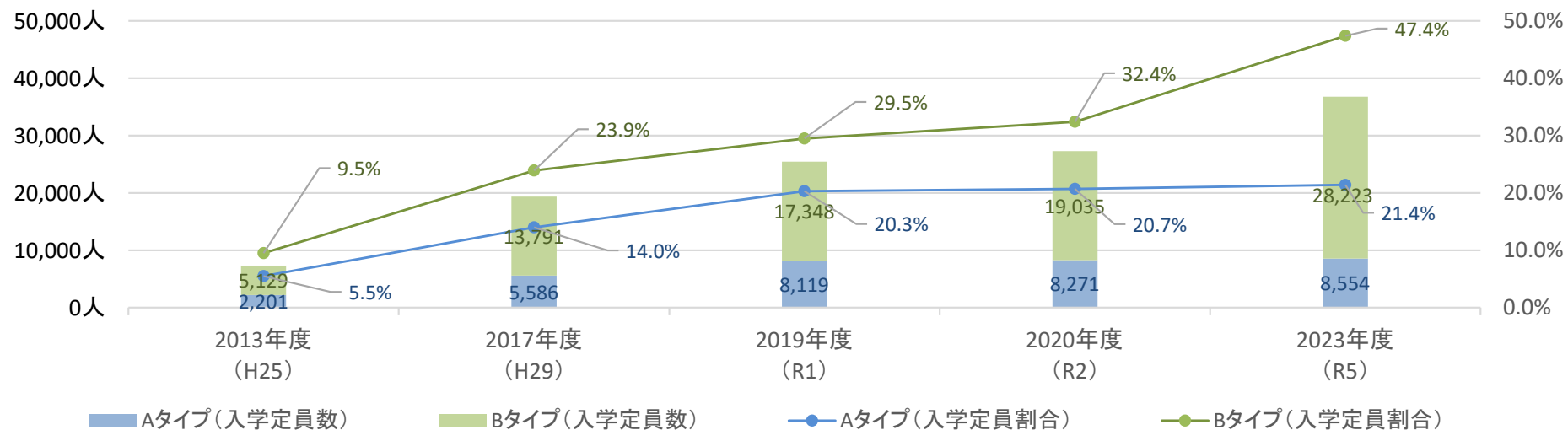


- 全体的に2013年度から2023年度まで英語外部試験を学部入試に活用する学部の定員数とその割合は約5倍と大きく増加。
- タイプ別でみると、SGU実施前からBタイプの方がAタイプよりも英語外部試験を学部入試に活用する学部の定員数とその割合が大きい。また、2013年度から2023年度までの増加率の点からも、Bタイプの方が伸びが見られる。

SGU校全体



タイプ別 (A・B)



3. SGU採択大学の指標グラフ

・3－1 必須指標

・3－2 選択指標

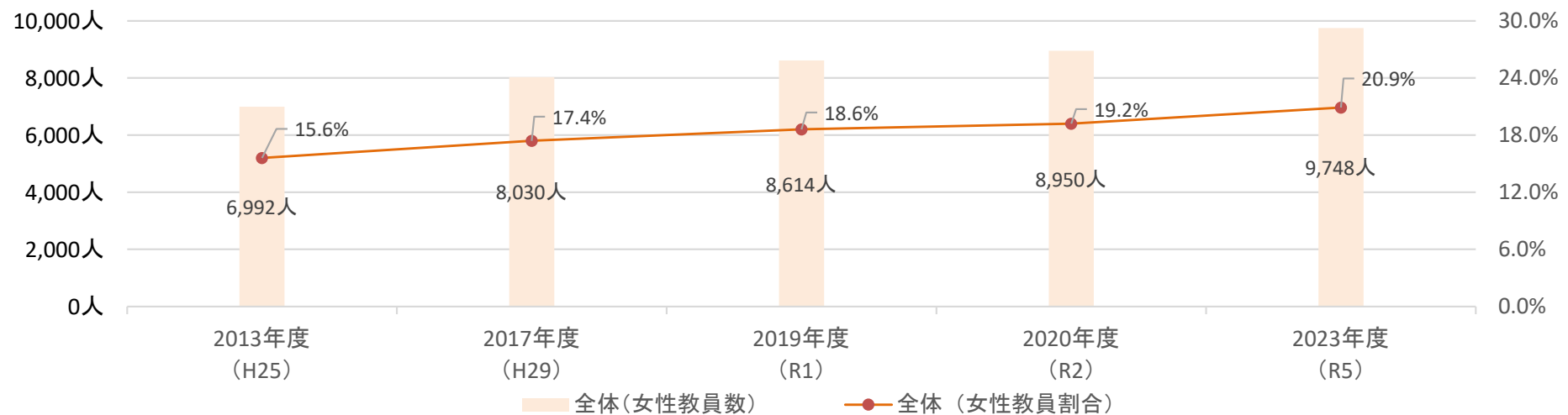
◆実績のピックアップ年度は、以下のとおり。

- ・2013年度(H25) : SGU事業開始前年度
- ・2017年度(H29) : 1回目中間評価年度(支援開始から4年目)
- ・2019年度(R1) : 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)流行ピークの前年度
- ・2020年度(R2) : 2回目中間評価年度(支援開始から7年目)
- ・2023年度(R5) : SGU事業最終年度

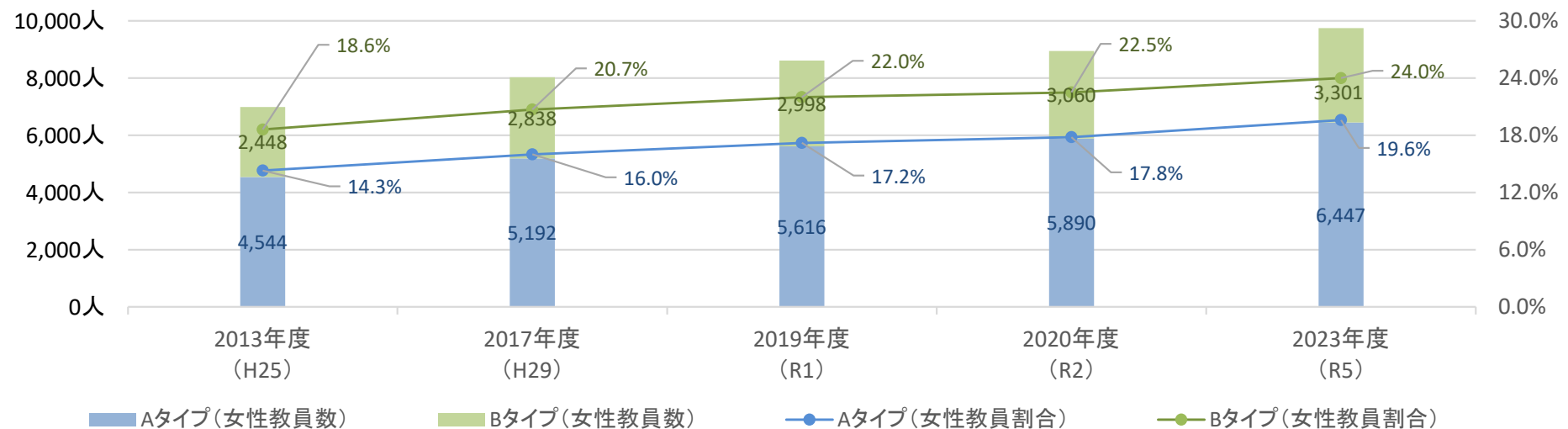
③-1 教職員に占める女性の比率
(教員割合) <5/1時点>

- 全体的に2013年度から2023年度まで女性教員数と全専任教員数に占める女性割合は約1.3倍とやや増加。
- タイプ別でみると、SGU実施前からBタイプの方がAタイプよりも全専任教員数に占める女性割合が大きい。また、2013年度から2023年度にかけて、女性教員数および全専任教員数に占める女性割合のいずれも両タイプとも同等程度の増加率となっている。

SGU校全体



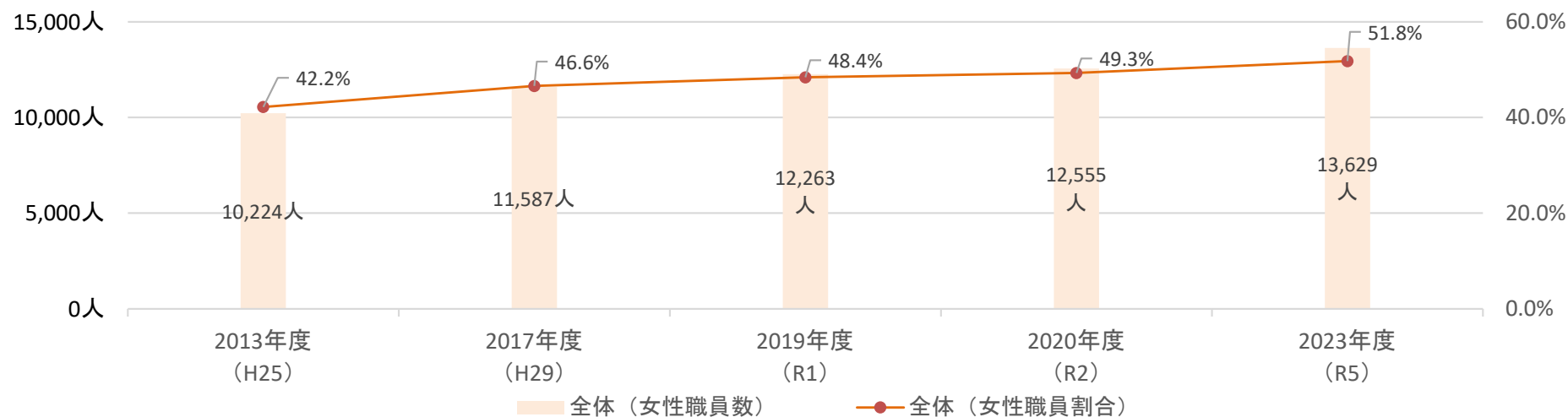
タイプ別 (A・B)



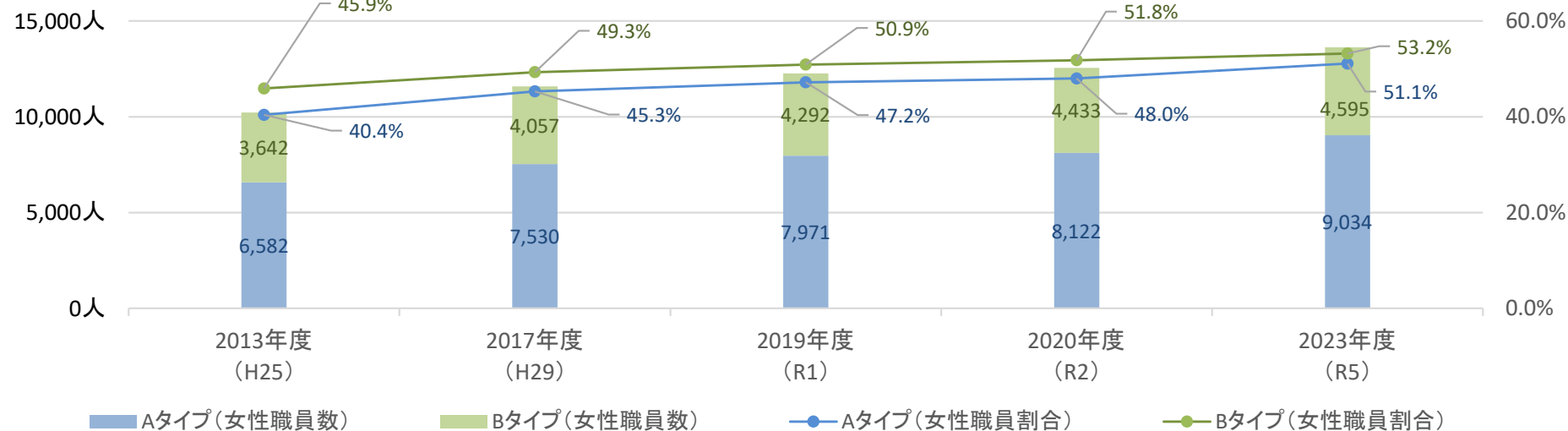
③-2 教職員に占める女性の比率
(職員割合) <5/1時点>

- 全体的に2013年度から2023年度まで女性職員数と全専任職員数に占める女性割合は約1.2倍とやや増加。
- タイプ別でみると、SGU実施前ではBタイプの方がAタイプよりも全専任職員数に占める女性割合が大きかったところ、2023年度では、全専任職員数に占める女性割合は、両タイプとも同等程度となっている。

SGU校全体

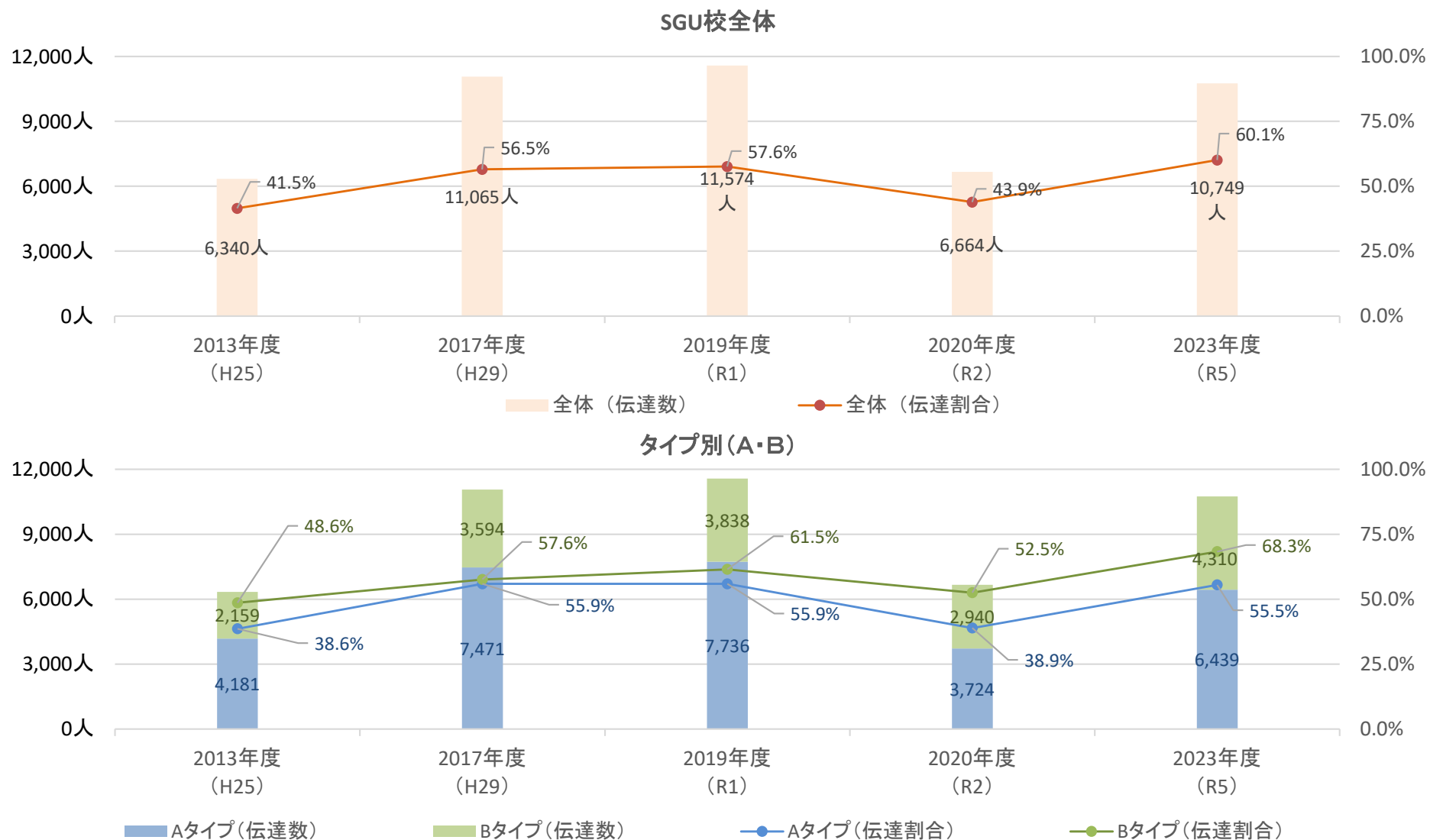


タイプ別(A・B)



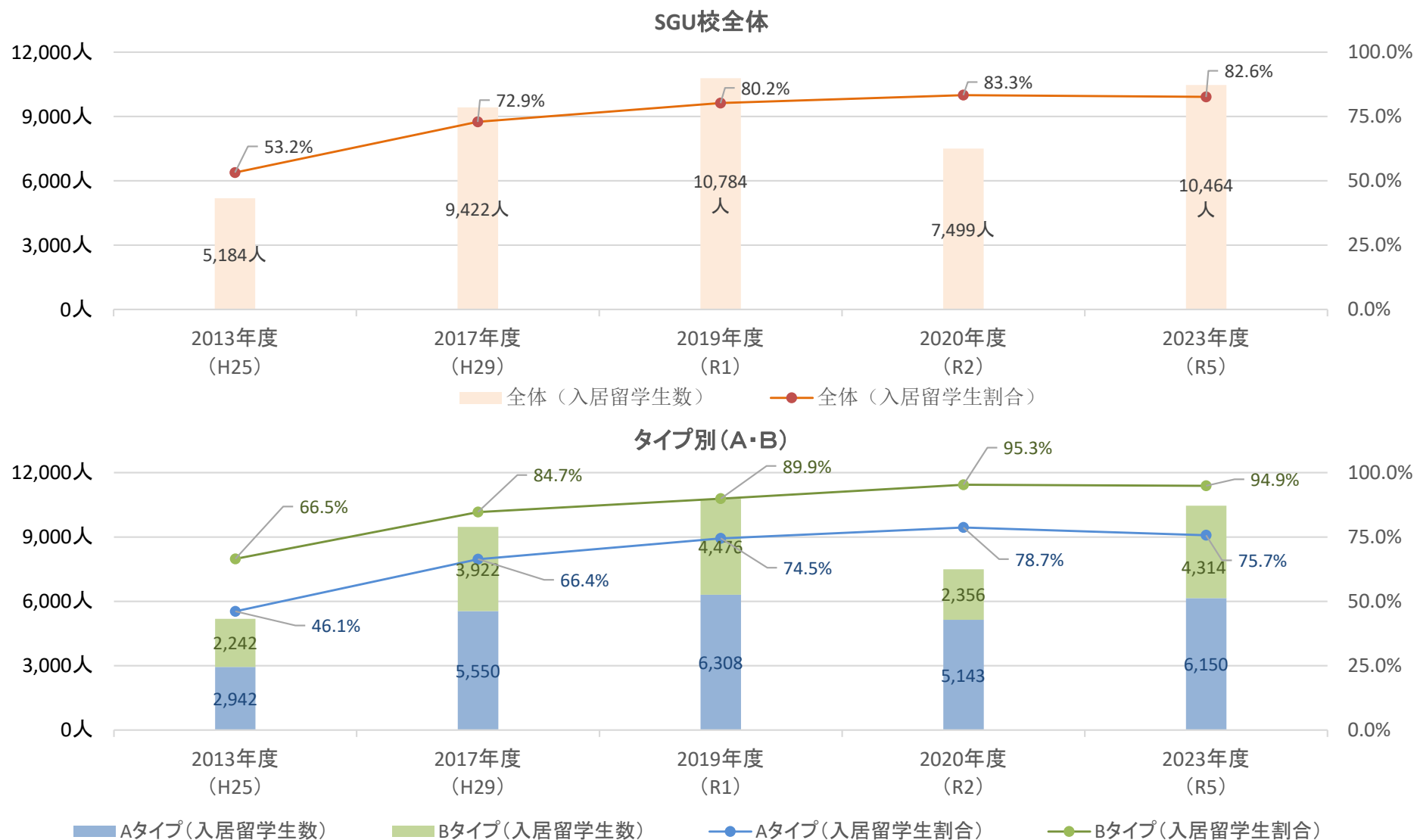
⑫ 奨学金支給の入学許可時の伝達 <通年>

- 全体的に2013年度からコロナ影響前の2019年度まで外国人留学生への奨学金支給の入学許可時の伝達数とその割合は増加。
- タイプ別でみると、SGU実施前からBタイプの方がAタイプよりも奨学金支給の入学許可時の伝達割合が大きく、両タイプとも2019年度まで伝達数とその割合は順調に増加している。
- 一時コロナの影響による落ち込みが見られたが、2023年度においてはコロナ影響前の年度と同等程度の数値まで回復されている。



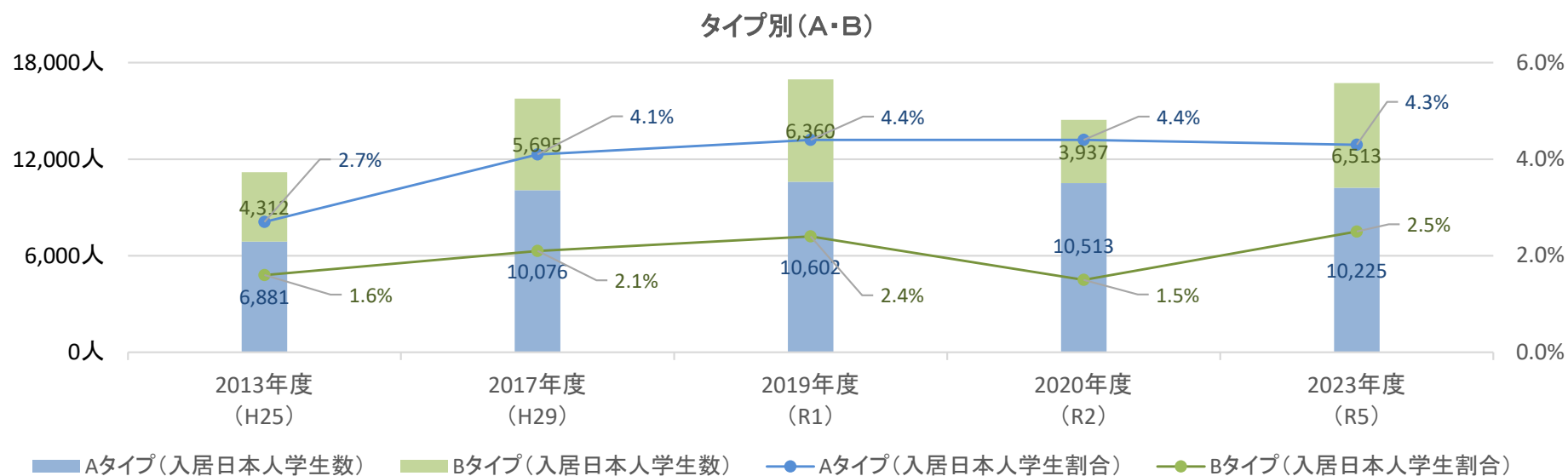
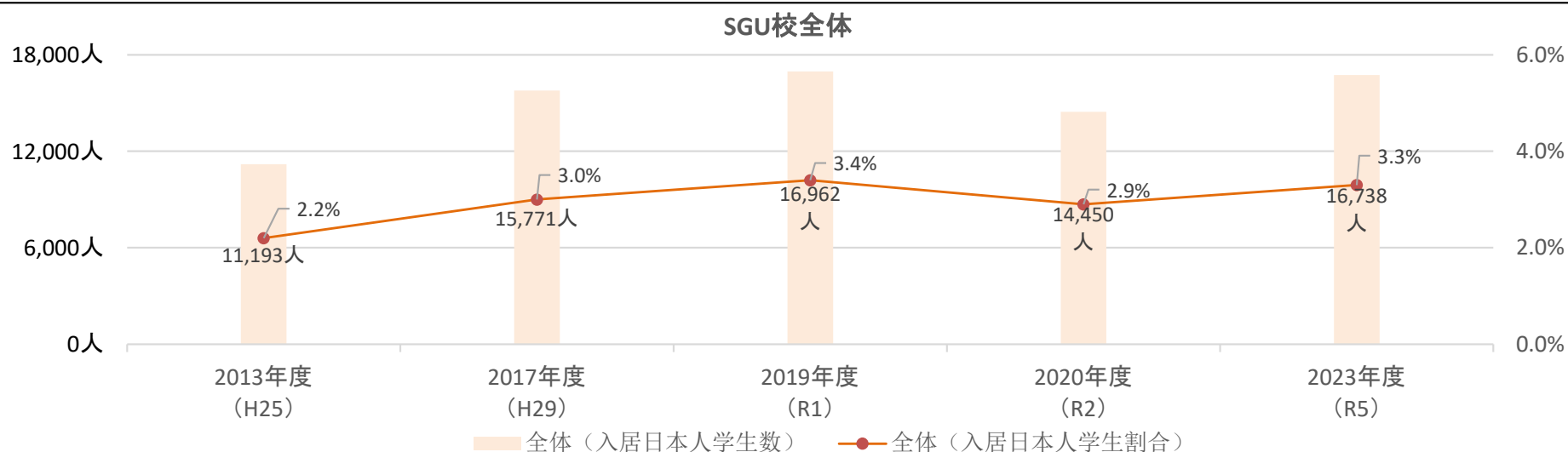
⑬-1 混住型学生宿舎の有無
(外国人留学生割合) <5/1時点>

- 全体的に2013年度からコロナ影響前の2019年度まで混住型学生宿舎に入居している外国人留学生数とその割合は順調に増加し、その後も緩やかに上昇。
- タイプ別でみると、SGU実施前からBタイプの方がAタイプよりも混住型学生宿舎に入居している外国人留学生の割合が大きい。
- 一時、数としてはコロナの影響による落ち込みが見られたが、割合としてはコロナ禍においても緩やかに伸び、2023年度においてはタイプBでは100%に近い数値となっている。



⑬-2 混住型学生宿舎の有無
(日本人学生割合) <5/1時点>

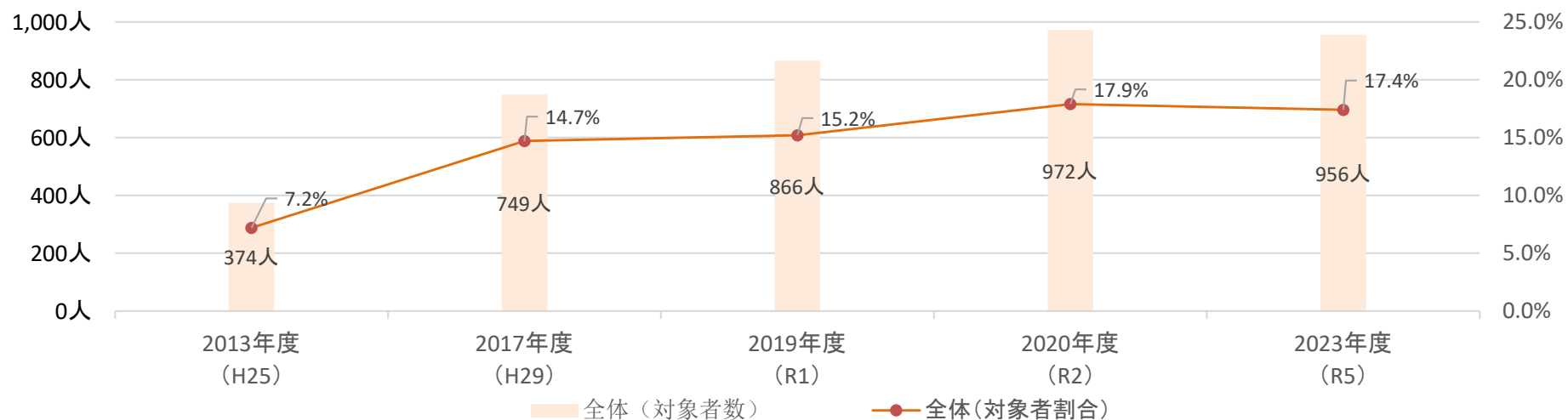
- 全体的に2013年度からコロナ影響前の2019年度まで混住型学生宿舎に入居している日本人学生数とその割合は緩やかに増加した。
- タイプ別でみると、SGU実施前からAタイプの方がBタイプよりも混住型学生宿舎に入居している日本人学生の割合が大きい。
- 一時コロナの影響による若干の落ち込みが見られたが、2023年度においてはコロナ影響前の年度と同等程度の数値まで回復されている。



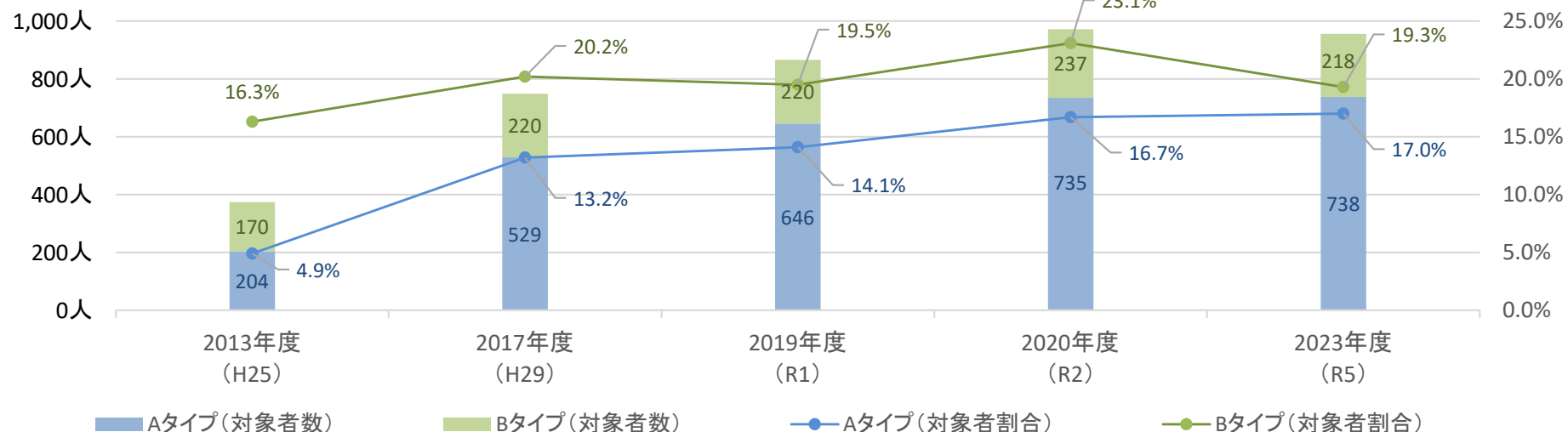
⑮ テニユアトラック制の導入 <通年>

- 全体的に2013年度から2023年度までテニユアトラック対象者数とその割合は約2.5倍と順調に増加。
- タイプ別でみると、SGU実施前ではBタイプの方がAタイプよりもテニユアトラック対象者割合が大きく開きがあったが、2013年度から2023年度にかけて、テニユアトラック対象者数およびその割合のいずれもAタイプにおいて大きな伸びを見せ、2023年度には両タイプとも同等程度の割合となっている。

SGU校全体



タイプ別 (A・B)



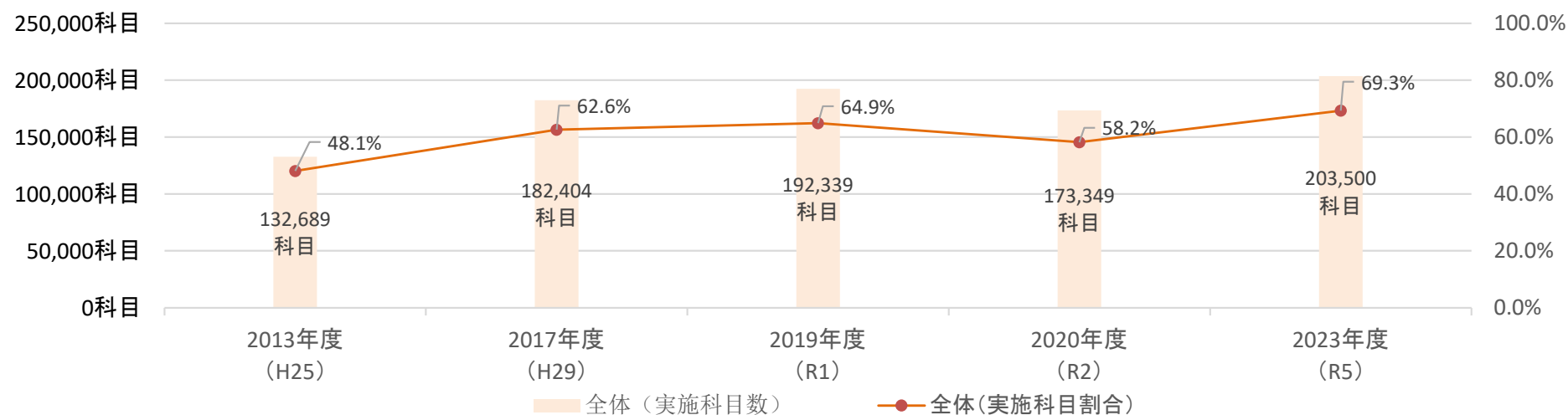
⑰ 学生の主体的参加と大学運営への反映促進 <通年>

- 全体的に2013年度から2023年度まで学生による授業評価実施授業科目数とその割合は約1.5倍と順調に推移。
- タイプ別でみると、Aタイプの方が若干の伸びは見られるものの、両タイプとも順調な推移を見せ、そこまでの差異はないものとなっている。

※「実施科目数」:

→ 同一授業科目で複数セッションが設けられている場合は、それぞれ独立した科目とする

SGU校全体



タイプ別（A・B）

